



 **serato** DJ Lite
ユーザーマニュアル

目次

4 はじめに

- 4 ハードウェア
- 4 システム要件

5 ソフトウェアのインストール

- 5 インストール (OSX/macOS)
- 5 インストール (Windows)

6 Serato DJ Proへのアップグレード

- 6 Serato DJ Proを使ってみる
- 6 Serato DJ Proのご購入

7 スタートガイド

- 7 ソフトウェアの起動
- 8 ソフトウェアの概要
- 10 ツールチップの表示
- 10 チュートリアルを見る
- 10 サポート情報
- 10 初心者向けチュートリアル
- 10 ショートカットキーの表示

12 音楽のインポート

- 12 Serato DJ Liteライブラリへの音楽の追加
- 12 外付けハードドライブ
- 13 iTunesライブラリの表示
- 13 CDからSerato DJ Liteへの音楽インポート
- 13 サポートされているファイル形式

13 音楽ストリーミング

- 13 破損ファイルについて
- 13 Seratoデモトラック

14 ファイルの準備

- 14 練習モードの概要
- 14トラックゲイン調整
- 14 ファイル解析
- 15 ファイルの解析方法
- 15 ファイルの再解析
- 15 解析設定
- 15 ビートグリッドの編集
- 16 ビートグリッドのロック
- 16トラックのロック
- 16 デッキにロードしたトラックの解析

17 メイン画面の概要

- 17 マスター出力レベル
- 17トラックおよびトラック概要表示
- 18 メイン波形表示
- 18 ビートマッチング表示
- 18 オートプレイ
- 18 アクティブデッキインジケーター
- 19 練習モード
- 19 練習モードのコントロール機能
- 20 Serato Play
- 20 Serato Playの操作
- 20 Serato Playの設定

21 ライブラリのナビゲーションと管理

- 21 マウスとキーボードによるナビゲーション
- 21 ハードウェアによるナビゲーション
- 21 検索
- 22 ライブラリのステータスアイコン
- 23 準備
- 23 ライブラリの整理
- 23 Seratoソフトウェアの互換性
- 24 クレートとサブクレート

目次

25 ファイルのコピーと管理

25 クレートのコピーと移動

25 ID3タグの編集

26 コラムの設定

27 ライブラリの自動バックアップ

27 ID3タグの再スキャン

27 見つからないファイルを探す

28 ミキシング

28 ミキシングと再生

28 次のトラックを見つける

28 デッキへのロード

28 取り出し

29 再生コントロール

29 トラックのテンポ調整

29 Serato DJコントローラーの使用

29 トラックのテンポ合わせ

30 トラックゲイン調整

30 Keylock

31 キューポイント

31 キューポイントの追加と削除

31 キューポイントトリガー

32 キューポイントのキーボードショートカット

32 一時キュー

33 ルーピング

33 オートループ

34 マニュアルループ

35 ビートグリッド

35 ダウンビートマーカー

36 バーマーカーとビートマーカー

36 ビートワープマーカー

37 ビートグリッドの編集

38 不正なダウンビートマーカー

39 不正なビートグリッドの調整

39 不正なビートグリッドのスリップ

40 グリッド編集のショートカット

41 同期

41 相対ピッチとテンポコントロール

41 平均BPMとテンポの変化

42 DJ-FX

42 DJ-FXの使用方法

42 ビートマルチプレイヤー

43 サンプラー

43 サンプラーの概要

43 サンプラーへの音楽のロード

43 サンプル再生

44 設定

44 DJ設定(コントロール設定)

44 DJ設定(曲のロード時)

45 オーディオ(USBバッファサイズ[レイテンシー])

45 ライブラリ+表示(ライブラリ)

46 ライブラリ+表示(表示)

46 ライブラリ+表示(音楽ストリーミング)

47 ミキサー

47 ミキサー(一般)

47 ミキサー(モニタリング)

48 ミキサー(クロスフェーダー)

48 ミキサー(MIC/AUX)

49 トラブルシューティング

49 警告ランプ

49 オーディオドロップアウト警告

49 オーディオのドロップアウトや歪み

50 ファイルが情報を保存しない問題

50 ハードウェアの切断

51 破損ファイル診断

はじめに

Serato DJ Liteソフトウェアのマニュアルへようこそ。

Serato DJ Liteは、ミュージックセレクターやDJの方に新たな音楽の操作方法をお届けするソフトウェア・ハードウェア統合システムです。

Serato DJ Liteソフトウェアを使用すれば、幅広いSerato対応ハードウェアで正確な操作を行いながら、お使いのパソコンでDJをすることができます。パソコンにSerato DJ Lite対応ハードウェアを接続し、それをお使いのサウンドシステムに接続するだけで、すぐにDJを始められます。

ハードウェア

このマニュアルには、Serato DJ Liteソフトウェアの一般的な情報が記載されています。Serato DJ Lite対応ハードウェアの全機種のリストは、こちらをご覧ください。

<https://serato.com/dj/hardware?license=dj-ready>

特定のSerato DJ Lite対応ハードウェアについての設定、操作、トラブルシューティングに関する情報は、ハードウェア製造者のマニュアルをご覧ください。

また、Serato DJ Lite対応ハードウェアとSerato DJ Liteとの相互作用に関する詳細は、そのハードウェアのクイックスタートガイドをご覧ください。

システム要件

Serato DJ Liteのインストールに先立ち、お使いのパソコンが以下のSerato DJ Liteダウンロードページに記載されているシステム要件を満たしているか確認してください。

<https://serato.com/dj/lite/downloads>

注: これはSerato DJ Liteを実行するための最小システム要件です。最高のパフォーマンスを実現し、プロの現場で使用するには、最小システム要件を上回る性能のパソコンを使用するよう推奨します。

ソフトウェアのインストール

インストール (OSX/macOS)

インストールに先立ち、当社ウェブサイトから最新バージョンのSerato DJ Liteをダウンロードするよう推奨します。

[OSX/macOS用最新インストーラーはこちらから](#)

Serato DJ Liteのインストール手順

1. ダウンロードしたSerato DJ Liteの保存場所をFinderで見つけます。
2. 「Serato DJ Lite.pkg」ファイルをダブルクリックします。
3. ソフトウェアインストーラーが表示されたら、[Continue (続行)]をクリックします。
4. ソフトウェアエンドユーザー使用許諾契約が表示されたら、契約を読み[Continue]をクリックします。プロンプトが表示されたら、[Agree (同意)]をクリックして諸条項に同意し、続行します。
5. [Continue]をクリックして保存先を確認します。
6. [Install]をクリックしてインストールを開始します。
7. プロンプトが表示されたらユーザー名とパスワードを入力し、[Install software (ソフトウェアのインストール)]を選択します。
8. これでSerato DJ Liteの標準インストールが開始されます。
9. これでインストールは完了です。[Close (閉じる)]をクリックします。

インストール (Windows)

インストールに先立ち、当社ウェブサイトから最新バージョンのSerato DJ Liteをダウンロードするよう推奨します。

[WINDOWS用最新インストーラーはこちらから](#)

Serato DJ Liteのインストール手順

1. ダウンロードしたSerato DJ Liteインストーラーの保存場所をWindowsエクスプローラーで見つけます。
2. 「SeratoDJ Pro.zip」をダブルクリックし、Windowsに付属するアーカイブツールか好みのサードパーティー製ツールを使用して、インストーラーを解凍します。
3. 「Serato DJ Lite.exe」インストーラーファイルを解凍してダブルクリックします。
4. ソフトウェアエンドユーザー使用許諾契約が表示されたら、契約を読み[I agree to the license terms and conditions (ライセンス条項に同意します)]のボックスにチェックを入れ、[Install (インストール)]をクリックします。
5. [User Account Control (ユーザーアカウントコントロール)]ウィンドウが開いた場合は、[Yes]をクリックして続行します。
6. これでSerato DJ Liteの標準インストールが開始されます。
7. これでインストールは完了です。[Close (閉じる)]をクリックします。

注: デスクトップにはショートカットアイコンも作成されます。

Serato DJ Proへのアップグレード

Serato DJ Liteの操作中に、一部の機能が無効化されてグレーで表示されているのを目にする機会があります。その機能にカーソルを合わせると、以下のメッセージが表示されます: **Upgrade to Serato DJ Pro to use this feature**

Serato DJ LiteをSerato DJ Proにアップグレードすると、より多くの機能をお使いいただけます。Serato DJ Lite対応ハードウェアはSerato DJ Proにも対応していますが、Serato DJ Proの使用にはSerato DJ Proライセンスの購入と有効化が必要です。

Serato DJ Liteには、そのための **Try Serato DJ Pro** ボタンがあり、クリックするとSerato DJ Proの一連の機能やSerato DJ Liteとの違いを説明するブラウザウィンドウが開きます。

Serato DJ Proを使ってみる

Serato DJ Liteに対応するコントローラーが接続されている場合、Serato DJ Proを14日間無料でお試しいただけます。

1. Serato DJ Lite対応コントローラーが接続されているか確認します。
2. Serato DJ Proをインストールし、開きます。画面右下にトライアルのポップアップウィンドウが開かない場合は、**Start Trial** をクリックします。

3. 右側に開いたポップアップウィンドウの  ボタンをクリックします。

4. My Seratoウィンドウが開き、メールアドレスの入力を求められます。(既にserato.comのユーザーアカウントをお持ちの場合は、ご登録のメールアドレスとパスワードでログインしてください。)

5. プロンプトが表示された場合は、再度  ボタンをクリックします。

これでSerato DJ Proの14日間無料トライアルが開始されます。トライアルの残り日数は画面右下に以下のように表示されます: **Trial: 13 days remaining**

Serato DJ Proのご購入

Serato DJ Lite対応のコントローラーでSerato DJ Proソフトウェアを使用するには、ライセンスをご購入になる必要があります。

1. Serato DJ Lite対応コントローラーが接続されているか確認します。
2. Serato DJ Proをインストールし、開きます。
3. Serato DJ Proインターフェイス画面右上付近の **My Serato** をクリックします。
4. オンラインウィンドウが開き、メールアドレスの入力を求められます。(既にserato.comのユーザーアカウントをお持ちの場合は、ご登録のメールアドレスとパスワードでログインしてください。)
5. **BUY SERATO DJ** をクリックします。
6. 画面の手順に従いご購入手を完了します。お手続き中に問題が発生した場合は、sales@serato.comまでお問い合わせください。
7. ご購入手続きが完了すると、Serato DJ Proが有効化できるようになり、オンラインウィンドウを閉じられます。

スタートガイド

ソフトウェアの起動

Serato DJ Liteを開く前に、Serato DJ Lite対応ハードウェアをパソコンのUSBポートに接続します。

Mac OSX/macOS

Serato DJ Liteはアプリケーションフォルダにインストールされます。

起動するには、アプリケーションフォルダ内のSerato DJ Liteアイコンをダブルクリックします。このアイコンをDockにドラッグするとより簡単に起動できます。

Windows

Serato DJ LiteはWindowsメニュー > [すべてのプログラム] > [Serato] > [Serato DJ Lite] にインストールされます。

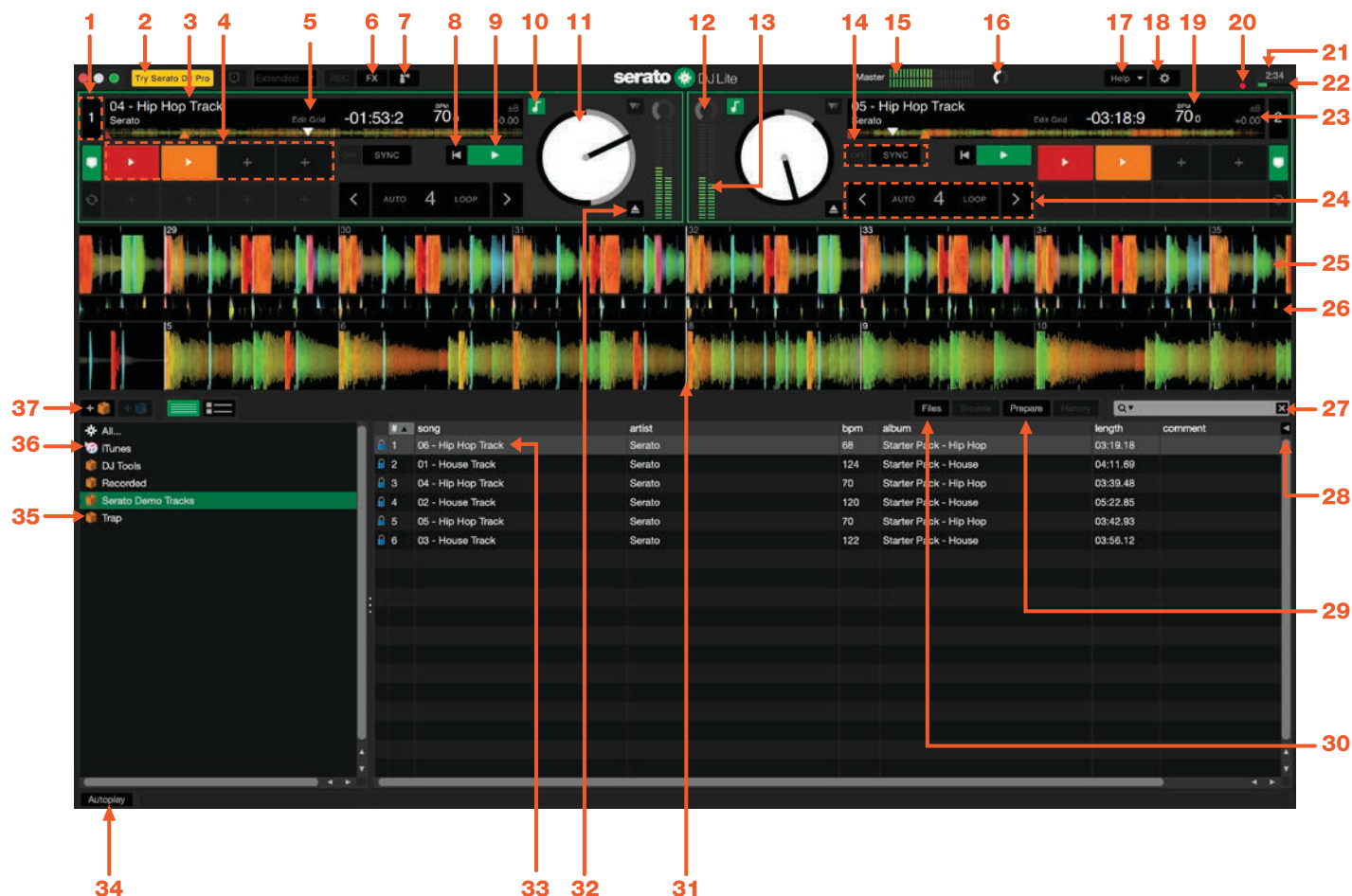
WindowsでSerato DJ Liteを起動するには、デスクトップ上のショートカットアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューを参照します。

注: 起動したSerato DJ Liteは、自動的にお使いのSerato DJ対応ハードウェアを検出します。ただし、ドライバーを必要とするハードウェアでは、適正なものがインストールされている場合に限られます。

スタートガイド

ソフトウェアの概要

以下の図は、Serato DJ Liteのメイン画面の概要を示しています。各機能については以下で詳しく説明します。



1	デッキレイヤー	現在選択されているデッキレイヤーが表示されます。デッキレイヤーのコントロールを変更します。(ハードウェアが対応する場合のみ)
2	Serato DJ Proを使ってみる	既定のウェブブラウザを読み込み、Serato DJ Proへのアップグレードにより追加される各種機能の説明があるSerato.comページを開きます。
3	トラック表示	現在デッキにロードされている曲のタイトルとアーティスト情報が表示されます。
4	キューポイントエリア	ハードウェア上のコントロールをクリックするか押すと、色付きで最大4つのキューポイントをトリガーまたは設定できます。
5	グリッド編集	デッキにロードしたトラックのビートグリッドを編集できます。
6	FX	クリックするとDJ-FXが開きます。 詳細は「DJ-FX」のセクションをご覧ください。
7	サンプラー	クリックするとサンプラーパネルが開きます。 詳細は「サンプラー」のセクションをご覧ください。
8	前のトラックをロード	ロードされているトラックの出だしをスキップできます。2回押すと前のトラックをロードできます。
9	再生	現在ロードされているトラックを再生します。再度クリックすると一時停止できます。Ctrl + クリックで逆再生します。
10	Keylock	[Keylock]を有効化すると、曲のテンポを変更してもキーが維持されます。

スタートガイド

ソフトウェアの概要

11	バーチャルデッキ	トラックをバーチャルデッキにロードして再生すると、その間バーチャルデッキが回転します。外側のリングはトラックの進行状況に合わせて黒からグレーに徐々に変化します。プлатター位置インジケーターは、トラック上で最も近くにあるキューポイントへの距離に合わせて色が変わります。
12	トラックゲイン調整	現在ロードされているトラックの個々のトラックゲインを調整できます。トラックゲインに加えられた調整はファイルに保存され、次回そのトラックがロードされた際に呼び出されます。
13	トラック出力レベルメーター	個々のデッキ出力を視覚的にモニターできます。
14	Sync ON / OFF	Syncの有効化や無効化を行えます。
15	マスターゲインレベルメーター	マスター出力を視覚的にモニターできます。
16	マスターゲイン調整	マスター出力のゲインを調整できます。これはハードウェア上のマスターレベル調整とは別個の機能です。
17	ヘルプ	[Show tooltips (ツールチップの表示)]、[Show shortcut keys (ショートカットキーの表示)]、[Watch tutorials (チュートリアルを見る)]、[Get support (サポート情報)]の各機能にアクセスできます。 詳細は「スタートガイド」のセクションをご覧ください。
18	設定	ソフトウェアの設定画面が表示されます。
19	現在のBPM	現在再生中のトラックのテンポがBPMで表示されます。
20	オーディオドロップアウト警告ランプ	オーディオのドロップアウトが発生する恐れのある場合に色付きの警告ランプが表示されます。
21	現在の時刻	現在の時刻が表示されます。
22	CPUメーター	現在のパソコンのCPU処理負荷が表示されます。
23	ピッチ%とレンジ	ピッチ調整(%)と現在のピッチのレンジが表示されます。
24	オートループコントロール	オートループのサイズを選択し、オートループの有効化/無効化を行えます。 詳細は「ルーピング」のセクションをご覧ください。
25	メイン波形表示	色付きの波形により現在ロードされているトラックの音の周波数が表示されます。
26	ビートマッチング表示	トラックのビートが強調表示されます。 詳細は「ビートマッチング表示」のセクションをご覧ください。
27	検索	このフィールドにテキストを入力し、ライブラリまたはクレートを検索できます。
28	コラムセクター	ライブラリアリアに表示するコラムやフィールドをクリックして選択できます。
29	準備	セット用に選択済みのトラックを含む準備パネルが表示されます。
30	ファイル	ハードドライブ上のトラックを検索するための[ファイル]パネルが表示されます。
31	再生ヘッド	トラックのメイン波形表示にある再生ヘッドの位置が表示されます。
32	取り出し	バーチャルデッキからロードされているトラックを取り出します。
33	ライブラリ	現在のライブラリで使用可能な曲が表示されます。
34	オートプレイ	Serato DJ Liteでオートプレイが有効化されていると、現在再生されているトラックの終了時に、次に使用可能なトラックが選択中のクレートから自動的にロード・再生されます。
35	クレート	クレートとサブクレートがリスト表示されます。
36	iTunes	iTunes経由でSeratoにロードされたトラックが表示されます。 詳細は「iTunes ライブラリの表示」のセクションをご覧ください。
37	クレートの追加	ファイルの整理用に新しいクレートを追加できます。 詳細は「クレート」のセクションをご覧ください。

スタートガイド

ツールチップの表示

Serato DJ Liteの画面右上の **Help** ボタンをクリックし、さらに **Show tooltips** をクリックすると、ツールチップが表示できます。ツールチップではSerato DJ Liteの様々な機能が手軽に学べます。

画面の各セクションにカーソルを合わせると、そのセクションの内容に合ったツールチップが表示されます。

チュートリアルを見る

Serato DJ Liteの画面右上の **Help** ボタンをクリックし、さらに **Watch tutorials** をクリックすると、既定のインターネットブラウザが起動し、Serato DJ Liteについて学べる各種チュートリアルが見られます。

サポート情報

Serato DJ Liteの画面右上の **Help** ボタンをクリックし、さらに **Get support** をクリックすると、既定のインターネットブラウザが起動し、Serato DJ Liteに関し役立つ記事やガイドが見られるナレッジベースページが開きます。または、**Search help** **Go** ボックスにキーワードを入力すると、Serato DJ Liteナレッジベース内にある特定の関連トピックを検索できます。

初心者向けチュートリアル

Serato DJ Liteの画面右上の **Help** ボタンをクリックし、さらに **Take first use tour** をクリックすると、Serato DJ Liteの画面右下の初心者向けチュートリアルが起動します。このチュートリアルでは、Serato DJ Liteの基本的な操作を説明します。チュートリアルを進めるには、**GOT IT** ボタンをクリックします。

ショートカットキーの表示

以下の操作はパソコンのキーボードで直接行えます。

再生ショートカット	左デッキ
選択したトラックをロード	Shift + 左矢印
ダブルトラック	Ctrl + Shift + 左矢印
バーチャルデッキから取り出す	Shift + Alt + 左矢印
再生/一時停止	W
逆再生	Q
次のキューポイントを設定	,
キューポイントを設定/ジャンプ	1、2、3、4
キューポイントを削除	Shift + 1、2、3、4
一時キューポイントにジャンプ	I
次のトラックをロード	Alt + W
前のトラックをロード	Alt + Q
巻き戻し	Alt + E
早送り	Alt + R
ピッチのバンドダウン	T
ピッチのバンドアップ	Y
Censor	U
Keylock	F5

スタートガイド

ショートカットキーの表示

ループのショートカット	左デッキ
Loop ON/OFF	[
オートループ ON/OFF	Alt + 1、2、3、4
ループのInポイント設定/調整	O
ループのOutポイント設定/調整	P
サンプルプレイヤーショートカット	キー
サンプル再生(スロット1~4)	Z、X、C、V
サンプル停止(スロット1~4)	Alt + Z、X、C、V
ライブラリの操作	キー
トラックを上下に移動	上/下矢印
クレートを上下に移動	Ctrl + Shift + 上/下矢印
ハイライトフォーカスを移動	タブ
カーソルを検索に移動	Ctrl + F
エクスプローラー(PC)またはFinder (Mac)でトラックを表示	Ctrl + R
最後にロードされたトラックを見つける(他のデッキで行うにはもう一度押す)	Ctrl + L
すべて選択	Ctrl + A
トラックのロードを元に戻す	Ctrl + Z
トラック/クレートを削除	Ctrl + Delete
ファイルをゴミ箱に送る	Ctrl + Shift + Delete
トラックを追加してパネルを準備	Ctrl + P
メイン波形表示を拡大/縮小	+ または -
ライブラリのテキストサイズを拡大/縮小	Ctrl と同時に+ または -
既定のメディアプレイヤーでトラックを開く	Ctrl + O
(BPMの編集集中) BPMをダブル/ハーフ	Alt + 上/下矢印
ビートグリッド編集モードを開く	Alt + スペースバー (押すたびにデッキが切り替わる)
Serato DJ Liteを終了	(Esc)

注: [再生用ショートカットキーにShiftを使用] のオプションが設定画面で有効化されている場合、すべての再生用ショートカットキーは「Shift」か「Caps Lock」を押しながら操作する必要があります。

記載のショートカットは、米国版キーボードのキーを基準としています。他のキーボードをお使いの場合、キーの位置が異なる場合があります。

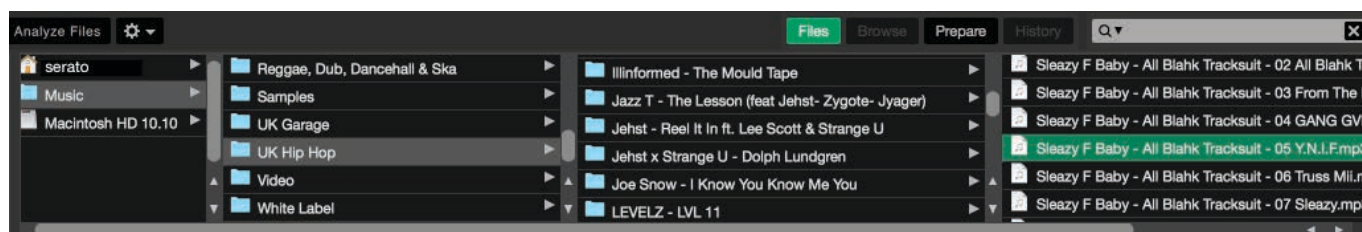
例えば、Windowsの「Ctrl」はMac OS Xの「Command」に当たります。同様に、Windowsの「Alt」はMac OS Xの「Option」に当たります。

注: 選択した曲をデッキにロードする場合(Shift + 左/右矢印)などのキーボードショートカットでは、「Shift」の代わりに「Ctrl」も使用できます。

詳細は「再生用ショートカットキーにShiftを使用」のセクションをご覧ください。

音楽のインポート

Serato DJ Liteライブラリへの音楽の追加



[ファイル] ボタンを使用すると、パソコンからライブラリに音楽を簡単にロードできます。

[ファイル] ボタンをクリックして、ファイルパネルを開きます。このウィンドウの左側にはパソコンのハードドライブ(または外付けドライブ)上の様々な場所が表示されます。そうした場所をクリックすると、パソコンでナビゲートし音楽を見つけることができます。既定では、音楽はユーザーのフォルダ内の[ミュージック]フォルダにあります。

音楽を見つけたら、インポートしたいフォルダやファイルを[すべて...]アイコンにドラッグします。このアイコンは画面左側のクレートとプレイリストウィンドウの上部にあります。

すべての音楽をインポートしたい場合は、[ミュージック]フォルダをこのアイコンにドラッグします。それにより、このマスターファイル中の互換性のあるすべてのファイルがハードドライブからSerato DJ Liteライブラリにインポートされます。

ヒント: Serato DJ Liteライブラリには、Windowsエクスプローラー(PC)かFinder (Mac)から直接ファイルやフォルダをドラッグしてインポートすることもできます。

ファイルは[ファイル]パネルからいずれかのデッキにロードされると、自動的にライブラリに追加されます。

ヒント: フォルダをクレートビューにドラッグすると、その場でクレートが作成されます。

詳細は「[クレート](#)」のセクションをご覧ください。

Serato DJ Liteでは、音楽はアプリケーションにコピーされず、現在ハードドライブ上にある音楽ファイルが参照されます。したがって、音楽ファイルを別の場所に移動すると、Serato DJ Liteではライブラリに見つからないと表示されます。

詳細は「[見つからないファイルを探す](#)」のセクションをご覧ください。

外付けハードドライブ

[ファイル]パネルには、お使いのパソコンに接続されている外付けハードドライブも表示されます。パソコンの内蔵ハードドライブからインポートするのと同様に、外付けハードドライブからライブラリにファイルを追加することができます。

Serato DJ Liteの実行時に外付けハードドライブが接続されていないと、そのドライブから追加されたファイルはライブラリに表示されません。

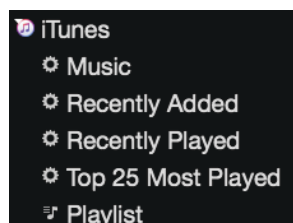
外付けハードドライブにあるファイルのライブラリ情報は外付けハードドライブ自体に保存されます。そこで、外付けハードドライブにあるトラックをライブラリに追加し、Serato DJ Liteを実行中の別の機器にそのドライブを接続すると、クレートやトラックは別の器機のライブラリに自動的に表示されます。

音楽のインポート

iTunesライブラリの表示

Serato DJ Liteでは、iTunes™ライブラリのインポートが可能です。それにより、iTunesにある音楽を再生したり、プレイリストにアクセスしたりできるようになります。この機能を有効化するには、設定画面で[ライブラリ+表示]タブを開き、ライブラリの[Show iTunes library (iTunesライブラリを表示する)]ボックスにチェックマークを入れます。

注: iTunesライブラリは、iTunesフォルダアイコンの横にある小さい三角をクリックすると最小化できます。



CDからSerato DJ Liteへの音楽インポート

オーディオCDをSerato DJ Liteに適したファイル形式に変換するには、サードパーティー製アプリケーションの使用を推奨します。オーディオ品質とファイルサイズのバランスが良い320kbpsのMP3ファイルをお勧めします。Serato DJ Liteでは、パソコンのCD ROM/DVDドライブから直接オーディオCDを再生できますが、ドライブとパソコンの処理速度により再生の質が落ちることがあります。

注: 再生はCDで直接行うのではなく、リッピングしたものを使用するよう推奨します。

サポートされているファイル形式

.MP3、.OGG、.AAC (Macのみ)、.M4A、.ALAC (MacおよびWindows 10のみ)、.FLAC、.AIFF、.WAV、.WL.MP3

固定ビットレートおよび可変ビットレート(VBR)の両方のファイルがサポートされています。DRMにより保護されたトラックはSerato DJ Liteには対応していません。

詳細は「[DRM](#)」のセクションをご覧ください。

音楽ストリーミング

Serato DJ Liteは、数種類のストリーミングプロバイダーを利用した、ライブラリ内からのオーディオストリーミングに対応しています。

詳細は「[音楽ストリーミング](#)」のセクションをご覧ください。

破損ファイルについて



このアイコンは、Serato DJ Liteによりファイルの破損が検出されたことを示します。こうしたファイルは正しく再生されなかったり、ライブラリを不安定にしたりする可能性があります。可能であれば、MP3を再エンコードするか、ライブラリから削除してください。破損ファイルにより問題が発生する場合があるため、なるべく早く削除するのがベストです。このステータスアイコンにカーソルを合わせると、検出された破損の種類がわかります。

詳細は「[破損ファイル診断](#)」のセクションをご覧ください。

Seratoデモトラック

Serato DJ Liteのインストーラーには6曲のSeratoデモトラックが含まれており、各ファイルはソフトウェアの初回起動時にSerato DJ Liteライブラリに自動的にインポートされます。

ファイルの準備

練習モードの概要



Serato DJ Lite対応ハードウェアが接続されておらず、現在既定のオーディオ機器から出力される場合は、練習モードが使用できます。コントロール類はユーザーインターフェイスで使用できるようになり、マウスやキーボードショートカットで変更も可能です。

練習モードでトラックをロードするには、波形表示エリアかトラック表示エリアにドラッグ&ドロップするか、Shift + 左矢印(デッキ2の場合はShift + 右矢印)を押します。

練習モードは、プレートの準備、トラックやミックスの試聴、キューポイントの追加に便利なツールです。


 ボタンをクリックすると、トラックのコントロール類にアクセスできます。

詳細は「キューポイント」のセクションをご覧ください。

詳細は「ループ」のセクションをご覧ください。

詳細は「練習モードのコントロール機能」のセクションをご覧ください。

トラックゲイン調整

 [トラックゲイン調整]では、練習モード中やSerato DJ Lite対応ハードウェアの接続中に、ロードされているトラックの再生音量を調整できます。

調整後のゲイン値はファイルに保存され、次にそのトラックをロードする時に使用できます。トラックゲインの調整方法は、Serato DJ Lite対応ハードウェアの接続時も同じです。

詳細は「トラックゲイン調整」のセクションをご覧ください。

ファイル解析

Serato DJ Liteの[Analyze Files (ファイル解析)]では、波形の概要表示やファイル破損の検出、また、有効になっている場合はBPM値の計算が行われます。Serato DJ Liteでファイルを解析することにより曲がすぐ使用できるよう準備でき、DJ時のCPU負荷も軽減します。最高のパフォーマンスを実現するため、ライブラリに曲を追加したらずく解析を行うよう推奨します。

注: ハードウェアの接続時は、[BPM設定]の各オプションが有効化されます。練習モードでデッキにファイルをドラッグした際に同じ値で新しいトラックを解析したい場合は、これらのオプションを選択したままにしてください。

注: 解析したくないファイルがある場合は、トラックをロックすることができます。

詳細は「トラックのロック」のセクションをご覧ください。

ファイルの準備

ファイルの解析方法

ファイルの解析には、ハードウェアを接続しない状態でSerato DJ Liteを開きます。画面にある[ファイル解析]ボタンをクリックすると、ライブラリ内で解析されていない**すべての**トラックが自動的に解析されます。

Analyze Files

あるいは、個々のフォルダ、クレート、ファイルをこのボタンにドラッグ&ドロップすることで、一度に少数または特定のファイルグループを解析することもできます。

ファイルの再解析

個々のトラック、選択した複数のトラック、またはクレート全体を[ファイル解析]ボタンにドラッグ&ドロップすると、以前に解析したトラックを再解析することができます。Serato DJ Liteでライブラリ内の**すべての**トラックを強制的に再解析するには、Ctrlキーを押しながら[ファイル解析]ボタンをクリックします。

注: ロックされたトラックは再解析されません。

解析設定



BPM設定

ファイルの解析中にSerato DJ LiteでBPMを計算するには、必ずこのオプションを選択します。このオプションが選択されている場合にファイルを再分析すると、手動で行った変更がすべて上書きされます。

注: ロックされたファイルでは、BPMは新規に計算されません。

詳細は「[トラックのロック](#)」のセクションをご覧ください。

BPMレンジ

このオプションでは、ファイルの解析中にBPMレンジの上限と下限を設定できます。正しいレンジを選択すると、BPMの解析時にハーフやダブルのBPM値が計算されずに済みます。例えば140 BPMで解析されているトラックを70 BPMで分析したい場合は、68～135 BPMのレンジを選択します。

注: BPM値が不正なトラックを見つけた場合は、練習モードでBPMレンジが正しいことを確認してください。

ファイルの準備

ビートグリッドのロック



ライブラリ内のトラックは、そのファイルのBPM情報が誤って変更されないようにロックすることができます。これにより、ライブラリ内のトラックで正しいBPM値があるものが簡単に見分けられるようになります。ロックしたいトラックを見つけたら、空白の[ステータス]コラム(メインライブラリウィンドウの最初のコラム)内でCtrlキーを押しながらクリックします。青いロックアイコンがこのフィールドに表示されます。再度Ctrlキーを押しながらこのアイコンをクリックすると、トラックのロックが解除されます。

ヒント: 複数のトラックを一度にロックすることができます。ロックしたい複数のトラックをハイライト表示し、[ステータス]コラム内でクリックします。するとそれらのトラックのすべてのタグを編集したいか、Serato DJ Liteに質問が表示されます。

トラックのロック



[ステータス]コラムに金色のロックが表示されているトラックでは、そのトラック自体のファイル情報を変更することができません。そのトラックの情報は、Serato DJ Liteでは一切永久的に変更できません。そうした情報には、BPM、波形、キューポイントやその他のメタデータが含まれます。ただし、セッション中はトラック情報を調整できる場合もあります。しかしその情報は、情報が保存されているファイルのメタタグには保存(書き込み)されません。

不正にフォーマットされたハードドライブを使用する(Windows PCでフォーマットされたNTFSドライブを、読み取りしかできないMacで使用する)と、ファイルがロックされる場合があります。

また、ファイル自体がロックされている場合もあります。トラックがロックされているかを調べるには、Serato DJ Liteでトラックをハイライト表示し、Ctrl + Rでハードドライブ上のファイルの場所を見つけます。

次にCommand + I (Macの[情報を見る])またはAlt + Enter (Windowsの[プロパティ])をクリックして、トラックが読み取り専用か、あるいはファイルへの書き込み権限があるかを確認します。

デッキにロードしたトラックの解析

未解析のトラックをデッキにロードすると、[ファイル解析]が行われます。練習モードで[BPM設定]を確認した際も、Serato DJ LiteでバーチャルデッキやサンプルスロットにトラックをロードするとBPMが設定されます。解析済みのトラックをデッキにロードしても、そのトラックにBPMがなかった場合はBPMの検出は行われません。

メイン画面の概要

マスター出力レベル

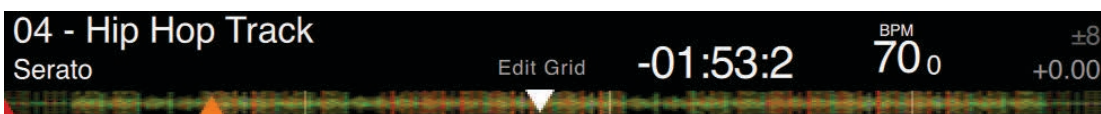


[マスター出力レベル]のコントロールにより、ハードウェアに送信される前のソフトウェア出力時における、メインミックスの最終音量レベルが設定できます。出力レベルは-12dB (最も左寄り)から+12dB (最も右寄り)の間で調整できます。[マスター出力レベル]のコントロールが適用されると、コントロールの横にある緑、黄、赤のオーディオメーターにオーディオ出力レベルが表示されます。

[マスター出力レベル]をCtrl + クリックすると、時計の針の12時の方向(0dB)にリセットされます。オーディオがこのレベルに設定されていると、メーターの緑色の部分がすべて点灯します。[マスター出力レベル]をAlt + クリックすると、ヘッドルームなしの+3dBの設定にリセットされます。オーディオがこのレベル設定されていると、メーターの緑色と黄色の部分がすべて点灯します。

オーディオがヘッドルームのある+3dB以上のレベル(赤い部分)になると、Serato DJ Liteのリミッターがかかり、クリッピングを防止します。それにより、メーターでは0dBを最大+9dB超過するまで赤く点灯し、リミッターのしきい値の超過幅が表示されますが、出力オーディオレベルはそれ以上上昇しなくなります。メーターが赤く点灯すると、リミッターがオーディオに影響しており、音質を下げる可能性があることを示します。したがって、常に赤く点灯しないレベルに保つことが推奨されます。

トラックおよびトラック概要表示



トラックがロードされると、トラック名、アーティスト、残り時間、現在のBPMがトラックのタイトルバーに表示されます。ただし、これらのうちでファイルに含まれていない情報は表示されません。

- **トラックタイム:** 現在ロードされているトラックの残り時間の合計が表示されます。
- **現在のBPM:** 現在のBPMが表示されます。
- **テンポレンジ:** 接続したハードウェアにより定まる現在のテンポが表示されます。
- **テンポ調整:** 現在のテンポが-%から+%の範囲で区切って表示されます。
- **グリッド編集:** [Edit Grid]をクリックすると、ビートグリッドエディターが開きます。

詳細は「[ビートグリッドの編集](#)」のセクションをご覧ください。

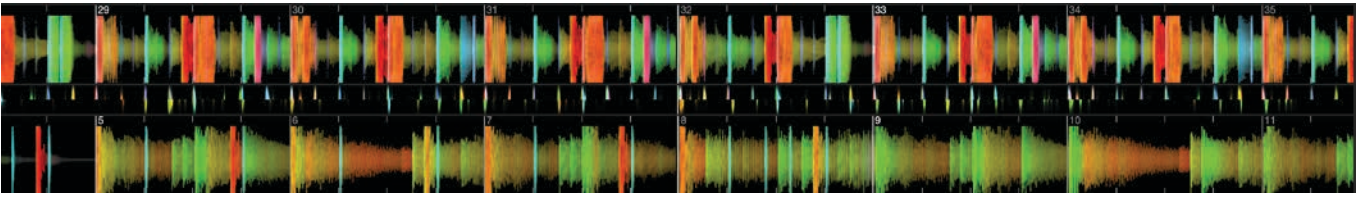
[トラック概要]エリアには、トラック全体の波形が表示され、トラック内の現在位置もマーカーで示されます。この表示により、トラック内のトランジションを見つけやすくなります。波形は音のスペクトラムに従って色分けされます。赤は低周波音(バス)、緑は中間周波音(ミッド)、青は高周波音(トレブル)です。トラックを概要表示上でクリックすると、トラック内の別の位置にジャンプできます。概要の背後にあるグレーの線はそれぞれ、トラックの長さを示す目盛りです。細い線は1分、太い線は5分です。ファイルの解析が済んでいない場合は、トラックをバーチャルデッキにロードした際に概要が入力されます。

ヒント: ファイルの解析は再生前に行ってください。

詳細は「[ファイルの解析](#)」のセクションをご覧ください。

メイン画面の概要

メイン波形表示

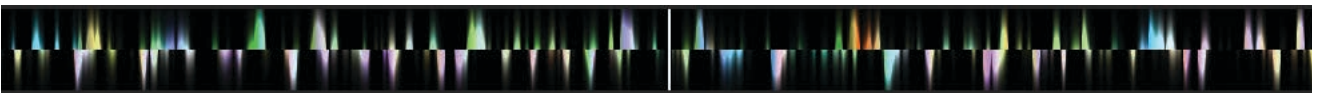


このエリアには、色分けされた音の周波数を含め、トラック情報が詳細に表示されます。赤は低周波音(バス)、緑は中間周波音(ミッド)、青は高周波音(トレブル)です。

波形をクリックして長押しすると、トラック内のその位置に微調整を加えることができます。メイン波形はトラックの現在位置を中心に拡大/縮小することができます。お使いのSerato DJ対応ハードウェアにあるピッチスライダーで表示スケールを変更し、ビートやテンポが合っているか見やすくすることができます。

ヒント: 拡大/縮小には「+」キーと「-」キーを使用します。

ビートマッチング表示



ビートマッチング表示は、曲のビートを簡単に合わせられるツールです。Serato DJ Liteではトラック内のトラックジェントが強調表示されるため、マッチングが簡単に行えます。2つのトラックのビートがマッチすると、両方のマーカーが揃います。

オートプレイ

Autoplay

対応可能なハードウェアを接続すると、メイン画面の左下に[オートプレイ]ボタンが表示されます。Serato DJ Liteで[オートプレイ]が有効になっている場合、現在再生されているトラックが終了すると、次に使用可能なトラックが選択中のクレートから自動的にロード、再生されます。

アクティブデッキインジケータ

4デッキのSerato DJ Lite対応ハードウェアをお使いの場合は、2つの表示デッキのボーダーが緑色に表示されます。これがアクティブ(使用中)デッキインジケータです。Serato DJ Lite対応ハードウェアのすべてのコントロール類とすべてのキーボードショートカットが表示デッキに適用されると、そのボーダーが緑色となります。

アクティブデッキを変更するには、Serato DJ Lite対応ハードウェアかキーボードを使用します。

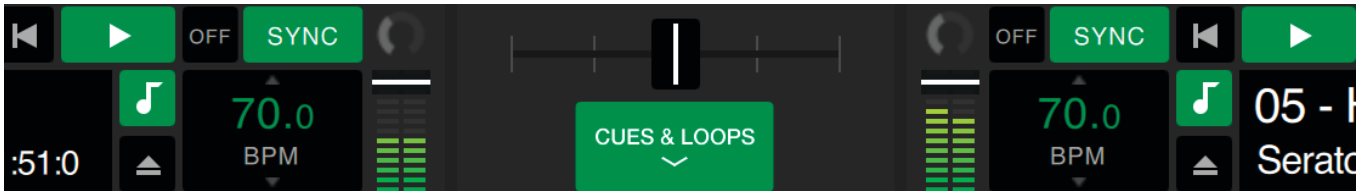
4デッキをお使いの際にアクティブデッキを選択すると、表示されるデッキが決まります。

ヒント: キーボードショートカットの「~」(波ダッシュ)を使用すると、アクティブデッキとして1/2と3/4の切り替えができます。

メイン画面の概要

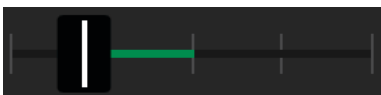
練習モード

練習モードを使用すると、DJ Proで2つ別個のファイルをミックスでき、対応するハードウェアに接続しなくてもミックスを練習できます。コントロール類はユーザーインターフェイスで使用できるようになり、マウスやキーボードショートカットで変更も可能です。



練習モードのコントロール機能

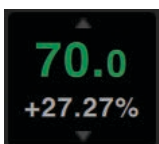
練習クロスフェーダー: 両デッキのオーディオのブレンドをコントロールします。Shiftキーを押しながらドラッグして微調整を行います。Ctrl(Command)キーを押しながらクリックすると、リセットされます。



音量アップフェーダーと入力ゲインレベルメーター: 音量アップフェーダーで対応するデッキの音量をコントロールできます。LEDストリップを使用して音声信号を監視し、LEDレベルが赤に達しないようにすることで音声の劣化を防ぎます。



BPM・ピッチスライダーボックス: 現在再生中のトラックのテンポが1分当たりの拍数で表示されます。この数字にはテンポスライダーの動作の変化が反映されます。BPMの調整をするには、BPMピッチスライダーボックス内でマウスをクリックしながら上下にドラッグします。微調整にはShiftキーを押しながらクリック&ドラッグします。Command/Ctrlキーを押しながらBPMピッチスライダーボックスをクリックすると、ピッチを0%にリセットできます。



バンド/ナッジ +/-: クリックすると一時的にテンポを調整し、テンポを合わせながらトラックを前後に移動できます。Ctrl + クリックで永続的なテンポの微調整ができます。



メイン画面の概要

Serato Play

Serato DJ LiteのExpansion Packの一つSerato Playを使用すると、Serato用のメインのハードウェアに接続しなくてもミックスが行えます。

1台から4台のバーチャルデッキを使用し、キーボードショートカットやマウスでEQ、クロスフェーダー、フィルターを調整し、ミックスを操作できます。Serato Playを有効化するには  ボタンをクリックします。

注: Serato Playは別売で、別個に有効化が必要です。詳細は [こちら](#) をご覧ください。

Serato Playの操作



EQ: ノブをクリック&ドラッグすると、低、中、高音の各周波数帯域幅の増減が行えます。Shiftキーを押しながらクリック&ドラッグすると、微調整が行えます。

Ctrlキー(macOSではCommandキー)を押しながらノブをクリックすると、ノブが既定位置にリセットされます。また、ノブの上にある白い点は、クリックすると青色に変わり、EQが適用されずにリセットされたことを示します。

フィルター: このノブをクリックしたまま右にドラッグするとハイパスフィルターのカットオフ周波数が上がり、左にドラッグすると下がります。

Shiftキーを押しながらクリック&ドラッグすると、微調整が行えます。

Ctrlキー(macOSではCommandキー)を押しながらノブをクリックすると、ノブが既定位置にリセットされます。また、ノブの上にある白い点は、クリックすると青色に変わり、EQが適用されずにリセットされたことを示します。


クロスフェーダー: クロスフェーダーをクリックしたまま左右にドラッグすると、異なるチャンネル間で音声をブレンドできます。

Shiftキーを押しながらクリック&ドラッグすると、微調整が行えます。

Ctrlキー(macOSではCommandキー)を押しながらクロスフェーダーをクリックすると、ノブが中間の既定位置にリセットされます。

Serato Playの設定

Split Headphone Cableを使用: この機能を有効化すると、オーディオスプリッターケーブルを使って音声を事前に聞くことができます。マスター出力をモニタリングしながら、同時にヘッドフォンを介して曲を事前に聞くのに使用します。

Split Headphone Cableオプションが有効化されたら、各デッキの  ボタンをクリックすると、スプリッターケーブル使用時にデッキのオーディオをヘッドフォンの出力ラインに送ります。



コントロールでヘッドフォンキュー出力のオーディオレベルを調整できます。

Serato Playホットキー: Serato Playでホットキーモードが有効になります。このモードでは、キーボードショートカットを使用して、ミキサー機能と基本的な再生機能をコントロールできます。キーボードショートカットを表示するには、[キーを表示]をクリックします。

クロスフェーダーの割り当て: クロスフェーダーの左右にチャンネル出力を割り当てます。ボタンをクリックすると、クロスフェーダーへのチャンネル割り当てを解除できます。

ライブラリのナビゲーションと管理

ライブラリにはSerato DJ Liteに追加したすべての音楽が含まれています。参照と検索の機能を使用して簡単に選択範囲を狭め、探しているトラックを見つけることができます。

ヒント: キーボードショートカットのCtrl + 「+」またはCtrl + 「-」でライブラリテキストのサイズを変更できます。

マウスとキーボードによるナビゲーション

矢印キーとマウスを使用してライブラリ内をナビゲートできます。矢印キーで上下・前後の操作が行えます。

ハードウェアによるナビゲーション

ハードウェアのコントロール類を使用してライブラリ内をナビゲートできます。

[詳細はお使いのハードウェアのマニュアルをご覧ください。](#)

検索




Serato DJ Liteには、トラックを簡単迅速に探せる検索機能があります。検索ボックスにテキストを入力するだけで、Serato DJ Liteが自動的に検索を開始します。


ヒント: キーボードショートカットCtrl + Fで検索ボックスにジャンプできます。また、このキーボードショートカットを使用すると、クレートやプレイリストからメインライブラリに移動して、自分のコレクションからどんなトラックでも見つけられるようになります。その後クレートやプレイリストをクリックすると、検索クエリはクリアされます。検索を行うフィールドを選択するには、検索ボックスの左側をクリックすると、ドロップダウンメニューに現在使用中の各フィールドが表示されます。Escキーを押すか検索ボックス右側の [X] ボタンをクリックすると、検索をクリアできます。

ライブラリのナビゲーションと管理

ライブラリのステータスアイコン

 Serato DJ Liteによりファイルの破損が検出されました。こうしたファイルは正しく再生されなかったり、ライブラリを不安定にしたりする可能性があります。可能であれば、MP3を再エンコードするか、ライブラリから削除してください。

詳細は「[破損ファイル診断](#)」のセクションをご覧ください。

 このトラックは見つかりません。ライブラリには黄色で表示されます。ファイル名が変更されたか、Serato DJ Liteで最初に使用した場所から移動された可能性があります。


詳細は「[見つからないファイルを探す](#)」のセクションをご覧ください。

 このトラックはiTunesライブラリからインポートされました。


詳細は「[iTunesライブラリの表示](#)」のセクションをご覧ください。

 このトラックはiTunesからインポートされましたが、破損しています。


詳細は「[破損ファイル診断](#)」のセクションをご覧ください。

 このファイル形式はサポートされていないか、サポートされているファイル形式の仕様に一致しません。


詳細は「[サポートされているファイル形式](#)」をご覧ください。

 このトラックはiTunesからインポートされましたが、ファイルが見つかりません。

詳細は「[iTunesライブラリの表示](#)」のセクションをご覧ください。

 このトラックはロックされています。


詳細は「[トラックのロック](#)」のセクションをご覧ください。

 このトラックのBPMとビートグリッドはロックされています。

詳細は「[ビートグリッドのロック](#)」のセクションをご覧ください。


ライブラリのナビゲーションと管理

準備

レコードを半分袋から出してセットを準備するのと同様に、準備パネルはトラックを待機させるエリアです。Serato DJ Liteで  ボタンをクリックすると、準備パネルが開きます。

キーボードとマウスを使ってライブラリ内をナビゲートし、トラックやクレートを準備パネルにドラッグします。トラックは再生が完了すると準備パネルから削除されます。プレビュー後にトラックの再生を止めることにした場合は、Ctrl + Zでトラックを取り出し、準備クレートに戻すことができます。準備パネルにあるすべてのトラックは、Serato DJ Liteを終了すると破棄されます。

ヒント: キーボードショートカットのCtrl + Pを使うと、準備パネルにトラックを追加できます。

ヒント: 選択を保存するには、準備パネルの内容を選択し、[新しいクレートを作る] ボタン  にドラッグします。

ライブラリの整理

Serato DJ Liteでは無制限数のトラックをサポートでき、唯一の制限となるのはパソコンの仕様です。追加メモリーとより高速なCPUを使用すると、より大きいサイズのライブラリも処理できます。

Serato DJ Liteは、音楽を整理し簡単迅速にトラックを見つけるための様々な機能を備えています。

Seratoソフトウェアの互換性

Serato DJ Liteは、他のすべてのSeratoソフトウェアと同一のライブラリを使用します。既にSeratoソフトウェアをお使いの方は、すべての音楽、ループ、キューポイントがSerato DJ Liteでも使用できます。Serato DJでライブラリを作成してから、Serato ITCHやScratch Liveをインストールすると、Serato DJの音楽、ループ、キューポイントは、Serato ITCHやScratch Liveでも自動的に使用できるようになります。いずれかのプログラムで行った変更はライブラリに書き込まれるため、既存のループやキューポイントがある場合は、システム間での移動の際にご注意ください。


ライブラリのナビゲーションと管理

クレート

Serato DJ Liteでは、お気に入りのコレクションに手軽にアクセスできるようにデジタルクレートを使用します。作成できるクレートの数に制限はなく、どんなトラックでも複数のクレートに入れることができます。クレートのエリアはライブラリの左側にあります。

例えば、トラックを以下のクレートに整理することができます。その際、どのトラックも複数のクレートに保存できます。

- ヒップホップ
- ヒップホップ(フレンチ)
- ヒップホップ(UK)
- ヒップホップ(インストゥルメンタル)
- ヒップホップ(オールドスクール)
- ヒップホップ(LP)

新しいクレートを作成するには  ボタンをクリックします。クレートの名前を変更するには、クレート名をダブルクリックします。クレート内のトラックの順序は、上下にドラッグすると変更できます。

サブクレート

クレートをドラッグ&ドロップすると、サブクレートが作成できます。クレートをクレートパネルの左端にドラッグすると、クレートのツリー構造の最上位に位置させることができます。クレートを少し右にドラッグし、別のクレートの名前に重ねると、ドラッグされたクレートは重ねられたクレートのサブクレートとなります。

サブクレートは展開や折り畳みが可能なため、クレートを多数作成しても閲覧しやすくなります。

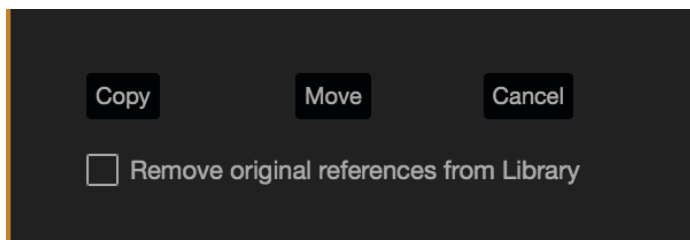
ライブラリのナビゲーションと管理

ファイルのコピーと管理

Serato DJ Liteでは、ドライブ間または同じドライブ上の新しい場所にファイルやフォルダをコピーして移動することができます。

ファイルやフォルダをコピー・移動するには、[ファイル]パネルを開いて選択し、移動したい場所にドラッグ&ドロップします。

するとSerato DJ Liteに以下のオプションが表示されます。



Copy (コピー): コピーを選択すると、選択したファイルやフォルダのコピーが新しい場所に作成されます。これでSeratoライブラリには元のファイル/フォルダとそのコピーの両方のエントリーが含まれます。

Move (移動): 移動を選択すると、選択したファイルやフォルダが新しい場所に移動します。これでSeratoライブラリとクレートは新しい場所にあるファイルを参照するようになります。

Cancel (取消): すべての変更を取り消します。

Remove original references from Library (ライブラリから元の参照を削除): コピー機能を使用する際にこのオプションを選択すると、Seratoライブラリにある元のファイルへの参照を削除し、新しい場所にあるコピーと置き換えます。元のファイルは現在の場所に保存されたままになりますが、Seratoライブラリで参照されなくなります。

クレートのコピーと移動

クレートやサブクレートも同様の方法でコピーや移動を行えます。[ファイル]パネルを開いてクレートやサブクレートを選択し、別のドライブにドラッグ&ドロップします。すると上記と同様のオプションが表示されます。

ID3タグの編集

各トラックの関連情報は、その多くをSerato DJ Lite内で編集することができます。編集するには、メインライブラリ内のフィールドをダブルクリックします。ただし、ファイル名、長さ、サイズ、ビットレート、サンプリングはファイル自体に保存されているため編集できません。

ヒント: キーボードショートカットのCtrl + Eを使用すると、テキストを編集できます。編集モードでCtrlキーを押しながら矢印キーでカーソルを動かすと、別のフィールドに移動できます。複数のトラックを選択した場合は、タグを編集すると選択したすべてのトラックが変更されます。

注: 読み取り専用のトラックにはロックのアイコンが付いています。

ライブラリのナビゲーションと管理

コラムの設定

トラック情報表示エリアは、以下のコラムを表示できるようにカスタマイズが可能です。

- 追加日時
- アルバム
- アーティスト
- ビットレート
- BPM
- コメント
- 作曲者
- ファイル名
- ジャンル
- グループ
- レーベル
- 長さ
- 場所
- 再生
- リミキサー
- サンプリングレート
- サイズ
- トラック
- 年

ライブラリ右上の検索機能の下にある三角形をクリックするか、ライブラリのコラム見出しのどれか一つを右クリックすると、リストが表示されフィールドのオン/オフが切り替えられます。コラムのサイズは、端にカーソルを合わせて希望の幅にドラッグすることで変更できます。

どのコラムも、クリックすることでそのコラムでの並べ替えができるほか、2次的な並べ替えを行えるコラムを選択することもできます。キーボードでCtrl (OSXではCommand)キーを押したまま別のコラムをクリックすると、そのコラムで次の並べ替えを行えるようになります。並べ替えを行う最初または次のコラムでもう一度クリックすると、昇順と降順と切り替えられます。

CtrlキーとShiftキーを押しながら2番目のコラムをクリックすると、切り替えを無効化できます。

ライブラリのナビゲーションと管理

ライブラリの自動バックアップ

Serato DJ Liteでは、ハードディスクに「Serato」という名前のフォルダが作成され、そこにライブラリのデータベースやクレート情報などの情報が保存されます。[Serato] フォルダは、Windowsでは[マイミュージック]、Macでは[Music]のフォルダ内にあります。また、Serato DJ Liteでは、ライブラリからファイルを追加した外付けドライブにも[Serato]フォルダが作成されます。

Serato DJ Liteを初めて終了する際は、ライブラリのバックアップを作成するよう求められます。このバックアップにより、[Serato]フォルダのあるシステムドライブや接続済みの外付けドライブにそれぞれ[Serato]フォルダのコピーが作成されます。このバックアップフォルダは「Serato_Backup」という名前です。初期バックアップ後は、そのドライブへの前回のバックアップが1週間以上前か、バックアップフォルダが存在しない場合のみ、バックアップを求められます。Serato DJ Liteでは一度に1個のバックアップフォルダしか保存されないため、Serato DJ Liteのバックアップを行う度に以前のバックアップフォルダは上書きされます。

注: パソコンに以前のバージョンのSerato ITCHやScratch Liveがインストールされていると、ライブラリのフォルダ名は「_Serato_」の代わりに「ScratchLIVE」となっている場合があります。また、ユーザーによっては両方のフォルダがある場合もあります。

ID3タグの再スキャン

Rescan ID3 Tags

[ファイル]パネルにある[Rescan ID3 Tags (ID3タグの再スキャン)]ボタンを使用すると、ライブラリ全体のファイルタグを再読み込みできます。他のソフトウェアでファイルタグを編集・変更した場合は、この機能を使用します。

ヒント: タグを再スキャンすると、名前が変更されたり移動されたりして見つからなかったファイルを簡単に探すことができます。こうして見つかったトラックは、ライブラリに赤く表示され、ステータスコラムに「?」アイコンが付きます。

見つからないファイルを探す

Relocate Lost Files

[Relocate Lost Files (見つからないファイルを探す)]ボタンは[ファイル]パネルにあります。既にライブラリにあったファイルを移動すると、見つからないファイルとして赤く表示されます。Finder (Mac)またはエクスプローラー (Windows)からフォルダやサブフォルダを[Relocate Lost Files]ボタンにドラッグ&ドロップすると、ライブラリで見つからないと表示されるファイルを検索することができます。この操作により、データベース内のファイルの場所が更新されます。

注: [Relocate Lost Files]ボタンをクリックすると、接続されているすべてのドライブで見つからないファイルが検索されますが、Serato DJ Liteライブラリのサイズとハードドライブ中のファイル構成の複雑度によっては非常に時間がかかる場合があります。

ミキシング

ミキシングと再生

これまでにトラックの検索、ロード、再生の方法について説明しましたが、トラックが再生できるようになったら、次は別のトラックとのミキシングを行きましょう。

次のトラックを見つける

まず、ミックスする次のトラックを探す必要があります。適当なトラックを見つけるには、ライブラリを参照します。コラムのヘッダー上部をクリックすると、ライブラリのコラムを並べ替えられます。

ヒント: ライブラリのBPMコラムは、現在のトラックに近いテンポのトラックを見つけるのに便利です。


デッキへのロード

お好みのバーチャルデッキに次のトラックをロードするには、マウスでライブラリからファイルをドラッグ&ドロップするか、以下のキーボードショートカットを使用します。

- Shift + 左矢印で左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)にロード
- Shift + 右矢印で右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)にロード
(またはSerato DJ対応ハードウェアのトラックロードに関するボタンも使用できます。)

詳細は「[キーボードショートカット](#)」のセクションをご覧ください。

取り出し

ロードされているバーチャルデッキからトラックを取り出すには、 ボタンをクリックするか、以下のキーボードショートカットを使用します。


- Alt + Shift + 左矢印で左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)から取り出し
- Alt + Shift + 右矢印で右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)から取り出し

詳細は「[キーボードショートカット](#)」のセクションをご覧ください。

ミキシング

再生コントロール

再生に関する操作には、各バーチャルデッキの上部にあるコントロール類をクリックします。

 **再生:**トラックを進行方向に再生します。一時停止するには、再度クリックします。Ctrl + クリックで逆再生します。

 **前のトラックをロード:** 使用中のクレートにある前のトラックをロードします。

再生操作にはキーボードショートカットを使用することもできます。

詳細は「[キーボードショートカット](#)」のセクションをご覧ください。

トラックのテンポ調整

トラックの再生速度は、Serato DJ対応ハードウェアのピッチスライダーやダイヤルで調整します。スライダーやダイヤルを動かすと、トラックのテンポを増減できます。

また、Serato DJ対応ハードウェアのピッチレンジボタンを使用して、ピッチレンジを調整できます。

詳細は[お使いのハードウェアのマニュアル](#)をご覧ください。

Serato DJコントローラーの使用

Serato DJ Lite対応コントローラーをお使いの場合は、トラックの再生速度をハードウェアのテンポスライダー/ダイヤルで調整できます。スライダーやダイヤルを動かすと、現在設定されているレンジでトラックのテンポを増減できます。また、テンポのレンジもSerato DJ Lite対応コントローラーのボタンで調整することができます。設定可能なピッチレンジはハードウェアにより異なり、どのレンジもあらゆるハードウェアで設定可能であるわけではありません。

トラックのテンポ合わせ

ピッチ調整コントロールを動かしてトラックのテンポを増減することで、テンポの異なる2つのトラックのテンポを合わせてミックスすることができるようになります。トラック表示エリアには、ピッチ調整後のBPMとピッチ率(%)が表示されます。


トラックを別のトラックのテンポに合わせるには、そのトラックのピッチを変更してBPM値を現在再生中のトラックのBPM値と同一にするのが最も簡単な方法です。一時キューポイントから何度も再生してピッチスライダーを微調整すると、トラックが全く同じ速度で再生されるようになります。


注: Serato DJ Liteでは、キーロックの有無にかかわらず、様々なテンポで音楽を再生できます。

詳細は「[キーロック](#)」のセクションをご覧ください。

ミキシング

トラックゲイン調整

 バーチャルデッキやサンプラーのサンプルスロットにロードした個々のトラックは、ゲインを調整することができます。調整レンジは-24dB～+24dBです。ゲイン値を0dBに設定するには、[トラックゲイン調整] ボタンをCtrl + クリックします。Serato DJ Liteには次回そのトラックをロードするのためにトラックゲインの調整値が記憶されます。


 [オートゲイン]機能が有効化されると、[トラックゲイン調整] ボタンはグレー表示となります。この場合も、ゲイン値を0dBに設定するには、[トラックゲイン調整] ボタンをCtrl + クリックします。ゲイン値を元のオートゲイン値に戻すには、[トラックゲイン調整] ボタンをAlt + クリックします。

詳細は「オートゲイン」のセクションをご覧ください。

トラックゲイン値は、トラック音量が最も大きい部分でもデッキの出力レベルが黄色に収まり、常に赤く点灯しないレベルに保てる設定を推奨します。

ヒント: トラックゲインを微調整するには、Shiftキーを押しながらコントロールを動かします。

Keylock

 [Keylock]を有効化すると、曲のテンポを変更してもキーが維持されます。[Keylock]機能ではスクラッチを検出できるため、ナチュラルなスクラッチ音が出ている間は自動的に無効化されます。

ヒント: F5キーとF10キーを押すと、それぞれ左と右のデッキの[Keylock]の有効化/無効化が行えます。

キューポイント

キューポイントとは、トリガー/クリックすると、曲中のその位置への移動を可能にするトラック上のマーカーです。Serato DJ Liteでは最大4つのキューポイントを設定できます。

注: 作成したキューポイントはファイルに保存され、次回そのトラックがロードされた際に呼び出されます。ファイルが移動されたり、ファイル名が変更されたりしても、失われることはありません。



キューポイントの機能は、Serato DJ対応ハードウェアのキューポイント操作ボタンを使用したり、ソフトウェアの[キューポイント]エリアでクリックしたりして設定できます。

[詳細はお使いのハードウェアのマニュアルをご覧ください。](#)

キューポイントの追加と削除

キューポイントを作成するには、空白のキューズロットにある **+** アイコンをクリックする、ハードウェアのそのスロット/デッキ用のHot Cueボタンを押す、キーボードショートカットのCtrl + 1~4(左デッキ)または6~9(右デッキ)を使用する、のいずれかを行います。

ボタンが点灯し、キューポイントが設定されたことを示します。

キューポイントを削除するには、キューポイント表示エリアにある **x** アイコンをクリックするか、Shiftキーを押しながら削除したいキューポイントに対応するハードウェア上のHot Cueボタンを押します。

キューポイントトリガー

設定されたキューポイントには、Serato DJ対応ハードウェアで対応するHot Cueボタンを押すか、キューポイントにカーソルを合わせると表示される **▶** アイコンをクリックするとジャンプできます。再生の一時停止中は、Hot Cueボタンを押しながらキューポイントをトリガーすることでその位置から再生を開始できます。Hot Cueボタンから指を離すと、キューポイントに戻って再度一時停止します。

ヒント: Serato DJ対応ハードウェアでHot Cueボタンを押しながら再生/一時停止ボタンを押した場合は、Hot Cueボタンから指を離しても再生が継続されます。この機能により、一時停止モードでもトラックのキュー出しが行え、納得のいくミックスができたところで再生を継続できます。

キューポイント

キューポイントのキーボードショートカット

キューポイントにはキーボードショートカットを使用してもジャンプできます。

1~4で左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)のキューポイントにジャンプ

6~9で右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)のキューポイントにジャンプ

注: 設定>再生画面で[再生用ショートカットキーにShiftを使用]機能が有効化されている場合は、Shiftキーを押しながら対応する数字キーを押す必要があります。

一時キュー

一時キュー機能を使用すると、ファイルには保存されない一時的なキューポイント(白いマーカーで表示)がトラックに設定できます。一時キューは、ミックスの試行錯誤中にトラック内の特定の位置を見つけ、その位置から簡単に再生を開始できるので便利です。既定では、一時キューはオーディオファイルの冒頭に設定されています。一時停止中はプラッターを使用して再生ヘッドの位置を微調整し、キューポイントが正確にダウンビート上に設定されるようにできます。



一時キューはキーボードショートカットを使用して設定できます。

l = 左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)にキューポイントを設定

K = 右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)にキューポイントを設定

注: 一時キューの設定時は再生を一時停止する必要があります。

一時キューを設定したら、ハードウェアで対応する一時キューボタン(通常はCueボタン)を押しながら一時停止すると、その一時キューポイントから再生が開始されます。ボタンから指を離すと再生は一時停止し、一時キューポイントに戻ります。これはトラックの出だしでスタッターをするのに便利です。

Serato DJ対応ハードウェアでCueボタンを押しながら再生/一時停止ボタンを押すと、両方のボタンから指を離すまで再生が続行します。この機能により、一時停止モードでもトラックのキュー出しが行え、納得のいくミックスができたところで再生を続行できます。

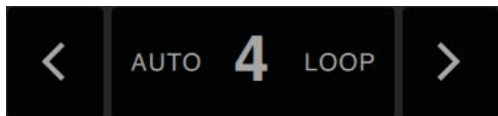
また、トラックの再生中にCueボタンを押すと、押したときの位置に戻ってデッキを一時停止します。一時キューの場所を変更するには、デッキを一時停止して再生ヘッドを別の位置に動かしてから再度Cueボタンを押します。一時キューポイントは、トラックのプリセット位置から繰り返し再生を開始したい場合にも便利です。納得がいくまで何回も簡単にドロップできるようになります。

ルーピング

Serato DJ Liteでは、様々なサイズのループを選択してオートループを、あるいはロードされたトラックのIn/Outポイントを決めてマニュアルループを、それぞれ設定できます。

オートループ

オートループを有効にするには、Serato DJ Liteによるトラックの解析とBPM値の検出が完了していなければなりません。その時点で、以下のコントロール類を使用できます。



オートループの表示範囲は1～8小節です。Serato DJ対応ハードウェアのオートループコントロール類を使用するか、作成したいループ値をクリックし、表示される様々な長さから選択します。表示範囲を移動するには、表示される長さの左右にある矢印ボタンを使用します。

オートループで表示される長さをクリックすると、再生ヘッドに妥当的に最も近いビートからループのスタートポイントが作成され、選択した長さに基づいてエンドポイントが設定されます。ループはSerato DJ Liteにより検出された曲のビートに揃うので、ややオフビートとなるタイミングでボタンを押してしまっても、Serato DJ Liteにより完璧なサイズのループが作成されます。

ループが有効な際に再び同じオートループ長を選択すると、そのループは無効化されます。ループが有効な際に別のオートループ長を選択すると、現在のループのエンドポイントが新たな長さに調整されます。以下のキーボードショートカットを使用して各デッキにオートループを有効化できます。

- Alt + 1～4で左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)
- Alt + 6～9で右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)

注: オートループでは、トラックのBPM値に基づきループが算出されるため、[ビートグリッド/BPMを設定] オプションを選択し、トラックを解析しておく必要があります。

ルーピング

マニュアルループ

ループ機能は、Serato DJ Lite対応コントローラーのループボタン/ダイヤルを使用して調整と設定を行えますが、キーボードショートカットでも初期設定を行えます。

ループを作成するには、[IN] ボタンをクリックしてInポイントを、[OUT] ボタンをクリックしてOutポイントを設定します。

ループの有効化/無効化には、[ループ/終了] ボタンをクリックします。

ループのInポイントを調整するには、[IN] ボタンを長押ししながらプラッターを動かしてスタートポイントを拡大/縮小します。[IN] ボタンから指を離すと変更を保存できます。同様に、[OUT] ボタンを長押ししながらプラッターで調整すると、Outポイントを調整できます。

- Alt + 1~4で左デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな左デッキ)
- Alt + 6~9で右デッキ(4デッキ使用の場合はアクティブな右デッキ)

注: オートループでは、トラックのBPM値に基づきループが算出されるため、[ビートグリッド/BPMを設定] オプションを選択し、トラックを解析しておく必要があります。

ビートグリッド

ビートグリッドのないトラックは、ビートグリッドの作成前にまず解析する必要があります。

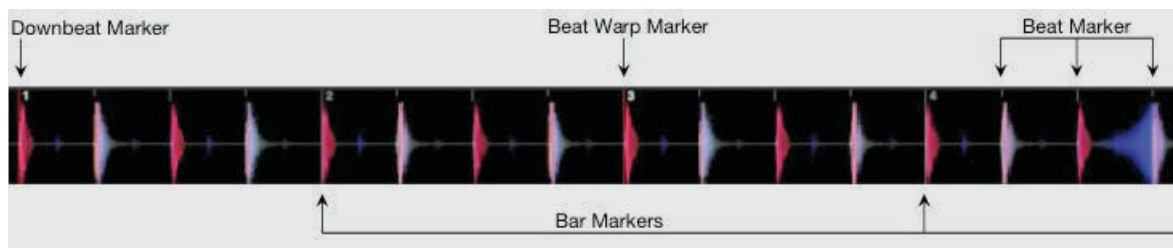
詳細は「ファイルの解析」のセクションをご覧ください。

ヒント:解析されていない新たなトラックは、解析する代わりにバーチャルデッキにトラックをロードすると、Serato DJ Liteによりビートグリッドが追加されます。その場合、オフラインのプレイヤーでは、[ビートグリッドを設定] オプションを選択しておく必要があります。

注:トラックの解析には時間を要する場合がありますため、ショーの前に済ませておくよう推奨します。

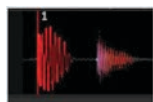
トラックのビートグリッドは、複数の部分で構成されています。

すべてのバー (小節) マーカーには、横に「1」(ダウンビートマーカー) から始まる番号が振ってあります。これは小節番号を示すものです。各小節は4ビートに分割され、各小節内のビート区分は3つの白いマーカーにより示されます。



ダウンビートマーカー

ダウンビートマーカーはトラックの最初のトランジェント (キックドラムやトラック冒頭のベースの音など) に配置される赤いラインです。ダウンビートマーカーは、第1小節であることを示すため、上に「1」と振ってあります。



BPMが正確であれば、ビートグリッドは完璧に設定され、それ以上の調整は必要ありません。

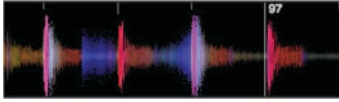
しかし、ビートグリッドマーカーがトラックのビートと揃わない場合は、ビートグリッドの編集が必要となります。

詳細は「ビートグリッドの編集」のセクションをご覧ください。

ビートグリッド

バーマーカー

ダウンビートマーカーが作成されると、トラックのBPM値を使用してビートグリッドが作成され、トラック全体の各小節の冒頭に一連のバーマーカーが配置されます。



各バーマーカーでは、ラインの横に小節番号が表示されます。これらはトラックの各小節の開始位置を示します。(例えば、1ビート目は小節番号1の開始位置にあります。)BPM値が正しければ、ビートマーカーはトラックの各ビートと揃います。

注:最初のダウンビートより前の小節は、マイナスの小節番号で表示されます。

ビートマーカー

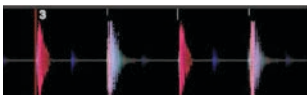
各バーマーカーの間には、トラックの各小節内の各ビートを示す一連のビートマーカーがグレーで小さく表示されます。



注:ハウスミュージックのような音楽では、ビートマーカーはキックドラムに揃う場合があります。ヒップホップやファンクなどの音楽では、ビートマーカーが実際のドラム音に揃わない場合もあります。

ビートワープマーカー

トラック内でテンポが変わる場合は、新たに手動で赤いビートワープマーカーを設定することができます。手動ビートワープマーカーを設定すると、そのマーカー以降のビートグリッドが変化します。それによりビートグリッドがトラックのテンポ変化に対応できるようになり、ビートワープマーカーを含むトラックが、ビートがずれることなくテンポ変化のないトラックと同期できるようになります。



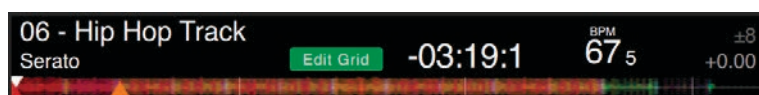
ビートワープマーカーは、必要に応じていくつでも設定できます。ライブ録音やヴァイナルからリップリングされたトラックは、テンポが何回も変わったり、変動したりする場合があります。

注:ライブ録音の音楽 (ロック、ファンク、レゲエなど) には、テンポの変化がよく見られますが、一般的な電子音楽 (ハウス、ドラムンベース、ポップなど) では、テンポが変わることはほとんどありません。

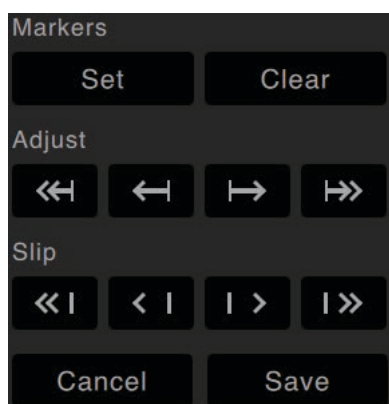
ビートグリッド

ビートグリッドの編集

ビートグリッドマーカーがトラックのビートに揃っていない場合は、ビートグリッドを編集する必要があります。オフラインプレイヤーで、あるいはSerato DJハードウェアに接続して、デッキにトラックをロードしたら、トラック経過/残り時間の横にある [Edit Grid] をクリックします。



[Edit Grid] をクリックするとビートグリッドエディターが開き、トラックの波形の上に青色のバーが表示されます。Serato DJハードウェアに接続している場合は、バーチャルデッキの代わりにビートグリッドが表示されます。



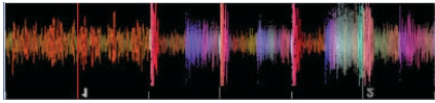
ビートグリッドエディターには、ビートグリッドの作成や不正なビートグリッドの修正に必要なツールが、すべて含まれています。

ヒント: ビートグリッドが正しく計算されているかを確認するには、トラックを早送りして各マーカーが各ビートに揃うかを確認します。(確認にはブレイクダウンの後が向いています。)トラックのアウトロ部分に移動し、マーカーがそこでもビートに合っているか確認するのも良い方法です。

ヒント: 変更を保存せずにビートグリッドエディターを終了するには、Escキーを押します。

ビートグリッド

不正なダウンビートマーカ



不正なダウンビートマーカ (上図)

ダウンビートマーカが正しく設定されていない場合や、最初のビートの位置を変えたい場合 (イントロが長いトラックなど) は、新たなダウンビートマーカを作成する必要があります。



1. [Edit Grid] をクリックするか、キーボードショートカットでAlt + スペースバーを使用して、ビートグリッドエディターを開きます。
2. ビートグリッドをクリアするには、[Clear] ボタンをクリックして再生ヘッドに最も近いマーカを削除します。(またはShift + Deleteでビートグリッド全体をクリアできます。)
3. ダウンビートの再生ヘッドを目的の位置の上に移動します。
4. [Set] をクリックするか、キーボードの「X」キーを使用して、ダウンビートマーカを設定します。ダウンビートマーカが、最も近いトランジェントに揃います。
5. [Save] をクリックするかEnterキーを押して、ビートグリッドエディターを終了し変更を保存します。

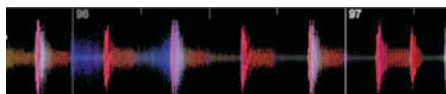


正しいダウンビートマーカ (上図)

詳細は「グリッド編集のショートカット」のセクションをご覧ください。

ビートグリッド

不正なビートグリッドの調整

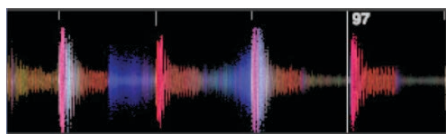


不正なビートグリッド (上図)

ビートグリッドは正しく判定されない場合もあり、マーカーがトラックのビートと正確に合わなくなることもあります。ビートグリッドのバーマーカーがビートと徐々にずれてきた場合は、ビートグリッドの調整が必要となります。ビートグリッドを調整すると、最後のダウンビートやバーマーカー以降のビートグリッドを伸縮できます。



1. [Edit Grid] をクリックするか、キーボードショートカットでAlt + スペースバーを使用して、ビートグリッドエディターを開きます。
2. トラックを見て、ビートグリッドにずれがあるか確認します。
3. ビートグリッドを伸縮するには、大小のグリッド調整ボタンを使用するか、キーボードの左矢印/右矢印キーを押します。
4. [Save] をクリックするかEnterキーを押して、ビートグリッドエディターを終了し変更を保存します。



正しいビートグリッド (上図)

詳細は「グリッド編集のショートカット」のセクションをご覧ください。

不正なビートグリッドのスリップ

ビートグリッドがトラックのテンポに合っていない場合、トラックのダウンビートビートマーカーが正しくなかったり、グルーブ感がずれている場合は、ビートグリッドのスリップが必要な場合があります。これにより、BPMの計算値を調整せずにビートグリッド全体をスリップ (移動) させることができます。

ビートグリッド全体 (ダウンビートマーカーとビートワープマーカーの両方) がずれている場合は、ビートグリッド全体をスリップすると、すべてのマーカーを同じ量だけ移動させることができます。



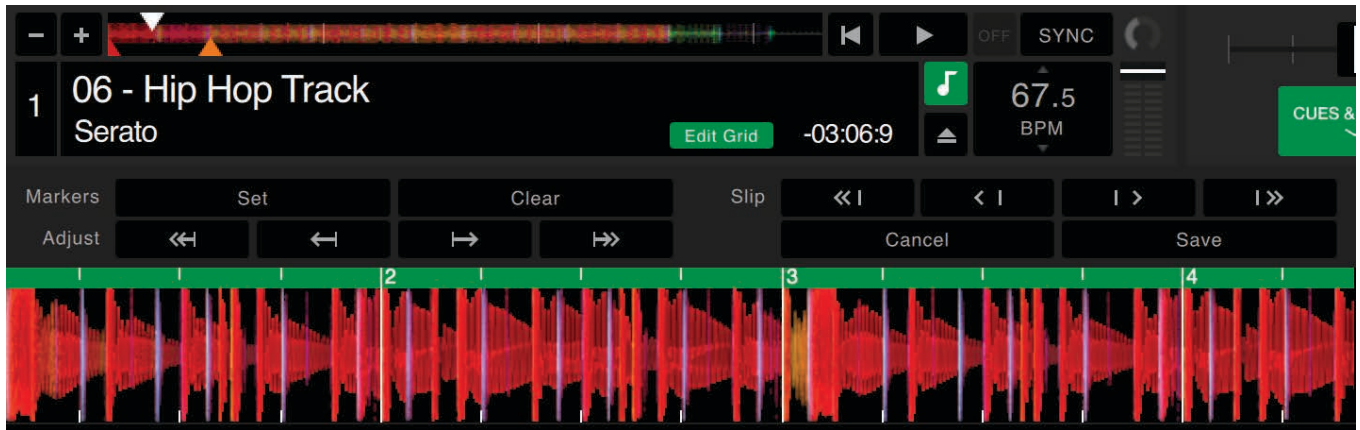
1. [Edit Grid] をクリックするか、キーボードショートカットでAlt + スペースバーを使用して、ビートグリッドエディターを開きます。
2. ビートグリッドを移動させるには、大小のグリッドスリップボタンか、キーボードのCtrl + 左矢印/右矢印キーを使用します。
3. [Save] をクリックするかEnterキーを押して、ビートグリッドエディターを終了し変更を保存します。

詳細は「グリッド編集のショートカット」のセクションをご覧ください。

ビートグリッド

グリッド編集のショートカット

ビートグリッドを編集するには、ビートグリッドエディターを開く必要があります。



グリッド編集モード (上図)

注:トラックを停止すると、ビートグリッドの調整が簡単になることがあります。パソコンのキーボードやマウスで以下の操作を行えます。

操作	キーボード	マウス
ビートグリッドエディターを開く	Alt/Option + スペースバー	
ビートグリッドエディターを終了	Esc	
ビートグリッドの変更を保存	Enter	
ビートワープマーカを設定	X	Alt + ダブルクリック
ビートマーカをクリア	Delete	
すべてのビートグリッドをクリア	Shift + Delete	
ビートグリッドを調整 (伸縮)	矢印キー	Alt + 白いバーマーカをクリック&ドラッグ
ビートグリッドを大きく調整 (伸縮)	Shift + 矢印キー	
ビートグリッドをスリップ	Ctrl + 矢印キー	Alt + 赤いダウンビートマーカをクリック&ドラッグ
ビートグリッドを大きくスリップ	Shift + Ctrl + 矢印キー	

ヒント: グリッドマーカをすべて削除したら、そのファイルを[ファイル解析]ボタンにドラッグして再度解析を行うか、「X」キーを押して手動でダウンビートマーカを設定するかして、新しいビートグリッドを作成します。

同期

[SYNC]をクリックすると、トラックのBPM値とトランジェントが一致します。次に読み込んだトラックのタイミングが合っていない場合でも、[SYNC]を押せば自動的にビートの同期が行えます。

ビートは、最も近いトランジェントを2つ一緒に合わせ、BPMにマッチさせることで同期できます。



同期パネル右側の[OFF]ボタンをクリックすると、この機能を無効化できます。それにより、ピッチはハードウェアのピッチスライダーに表示されるトラックの絶対ピッチに戻ります。

同期を有効化したデッキはスレーブデッキ、同期されるデッキはマスターデッキとなります。同期後のBPM値はマスターデッキから取得されます。

相対ピッチとテンポコントロール

同期中のデッキのハードウェアでピッチスライダー/ダイヤルを調整すると、同期中のすべてのトラックのテンポが変更されます。

デッキが同期中の場合、ピッチを変更すると同期中のすべてのデッキのピッチが影響を受けます。

これは「相対ピッチ」と呼ばれます。

デッキの[Sync]モードを解除すると、ピッチはハードウェアのスライダーに表示されるとおりの絶対ピッチでの音程に戻ります。

平均BPMとテンポの変化

ファイル解析ではBPMの平均値が計算されるにとどまり、トラックの実際のテンポがBPMの表示値と異なる場合もあります。テンポが変化するトラックの場合(ロック、レゲエ、ファンク、ジャズ、ライブ録音の一部など)や、BPMが経時的に変化する場合(アナログ盤、テープに収録された古いライブ、エンコード品質が劣る音楽など)がこれに当たります。

DJ-FX

[DJ-FX]パネルでは、iZotope™によるエフェクトを含み、デッキごとの使用が可能なマルチFXユニットがコントロールできます。

メイン画面左上の [DJ-FX] パネルボタン  をクリックすると、パネルが開きます。

このパネルはSerato DJ Lite対応ハードウェアの接続中のみ使用可能です。

DJ-FXの使用方法

[エフェクト選択] ドロップダウンボックスをクリックすると、エフェクトスロット用にエフェクトが選択できます。



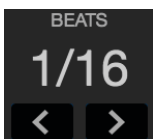
[エフェクト選択] ボックスの下にある [ON] ボタンをクリックすると、エフェクトのオン/オフを切り替えられます。エフェクトのパラメータを調整するには、ダイヤルやボタンをクリック&ドラッグします。パラメータは、選択したエフェクトの種類により音に対する効果が異なります。

Serato DJ LiteのFXでは、1つのFXバンクにつき最大3つのエフェクトを選択でき、[FX Depth] というパラメータを調整できます。

ヒント: Ctrlキーを押しながらダイヤルをクリックすると、パラメータダイヤルを簡単に既定値にリセットできます。

[FX Depth] ダイヤルは、多くのエフェクトに対し同一に機能し、ダイヤルを最も左にするとエフェクトなし(フルドライ)、最も右にすると最大限のエフェクトがかけられます(フルウェット)。

ビートマルチプライヤー



エフェクトのビートマルチプライヤーは、エフェクト時間の調整に使用します。エフェクト時間はトラックのBPM値に基づき設定されますが、ビートマルチプライヤーを使用すると時間の増減が行えます。

トラックにBPM値が設定されているよう、

[詳細は「BPMの自動設定」のセクションをご覧ください。](#)

サンプラー

サンプラーでは、バーチャルデッキで再生するトラックに加え、最大4種類の音源を再生できます。Serato DJ Lite ライブラリ内のどんなオーディオファイルも4つのスロットにロードし、短いサンプル、オーディオループ、サウンドエフェクトや、トラック全体を再生することができます。

 ボタンをクリックして、サンプラーパネルを開きます。

注: サンプラーは、Serato DJ Lite対応ハードウェアが接続されている場合のみ操作可能です。練習モードでは使用できません。

サンプラーの概要

サンプラーズロットには、4つのスロットとその再生状態、サンプラーマスターボリューム・サンプラーマスターミュートの切替ボタンが表示されます。




サンプラーへの音楽のロード

サンプラーにトラックをロードするには、ライブラリから目的のファイルをサンプルスロットにドラッグ&ドロップします。

ヒント: サンプラーにはキーボードショートカットを使用してトラックをロードできます。Ctrl + Alt + Z、X、C、Vが、サンプルスロットの 1、2、3、4にそれぞれ対応します。

ライブラリから4つのトラックを選択して最初のサンプルスロットにドラッグすると、その4つのトラックが4つのスロットに同時にロードされます。


スロットからサンプルを取り出すには、スロットにカーソルを合わせて  ボタンをクリックするだけです。

サンプル再生

サンプルは、Serato DJ対応ハードウェア、マウス、キーボードのいずれを使用してもトリガーできます。

- Serato DJ対応ハードウェアを使用する場合は、必ずサンプラーパフォーマンスパッドモードを有効化しておいてください。

[詳細はお使いのハードウェアのマニュアルをご覧ください。](#)

- マウスを使用する場合は、サンプルスロットにファイルをドラッグ&ドロップし、再生アイコン  をクリックします。
- キーボードショートカットを使用する場合は、「Z」(スロット1)、「X」(スロット2)、「C」(スロット3)、「V」(スロット4) を使って各サンプルをトリガーします。

注: 設定画面の再生タブで[再生用ショートカットキーにShiftを使用]が選択されている場合は、Shiftキーを押しながら上記の各サンプルスロットのショートカットキーを押す必要があります。

設定

設定画面では、Serato DJ Liteの各機能の動作をカスタマイズすることができます。

設定画面左下の **アップデートのチェック** ボタンをクリックすると、ソフトウェアの更新を確認できます。また、Serato DJ Liteで使用する言語は、設定画面右下の **言語** ドロップダウンメニューで変更できます。

各タブをクリックすると、DJ設定、オーディオ、ライブラリ・ディスプレイ、ミキサーの各オプショングループを切り替えられます。接続するSerato DJ対応ハードウェアにより、一部のオプションは使用できない場合があります。

DJ設定(コントロール設定)

再生用ショートカットキーにShiftを使用

このオプションを有効化すると、キーボード使用時に誤ってキーボードショートカット(再生、一時停止、バンド、ピッチ増減、巻き戻し、早送り、Censor、キューポイントにジャンプ)を使用するのを防止できます。ShiftキーやCaps Lockが押されておらず、コラムがアルファベット順にある場合は、文字キーを押すとその文字で始まるトラックに移動します。

Hot Cue を有効化

Hot Cueを有効化すると、Ctrlキーを押さなくても1~0の数字キーだけで空のキューポイントスロットにキューポイントを設定できます。

オートゲインの使用

Serato DJ Liteでは、概要構成プロセスの一部として、自動的に各トラックのオートゲイン値が計算されます。この値は、認識されたトラック音量を参考レベルに一致させるために必要なゲイン調整の値を表しています。[オートゲインの使用] オプションを選択した場合、オートゲインデータを含むトラックをデッキにロードする度に、トラックゲインダイヤルのトラックのオーディオレベルには、右側のドロップダウンリストから選択された参考値に合う値が設定されます。

ドロップダウンリストでは、89dB (小音量)~98dB (大音量)の範囲で選択できますが、推奨値は92dB (既定値)です。

DJ設定 (曲のロード時)

インスタントダブルス

[インスタントダブルス]では、両方のデッキにある同一のファイルの再生ヘッド位置を簡単に合わせられます。このオプションを選択すると、既にバーチャルデッキ(またはサンプルスロット)にロードしたファイルを別のバーチャルデッキにロードした際に、再生ヘッドが再生中のトラックの位置までジャンプします。また、Keylockの状態、Syncの状態、ループ設定もコピーされます。

4デッキハードウェアをお使いの場合は、キーボードショートカットを使用して同一ファイルをロードすると、対応するアクティブデッキにロードしたファイルにインスタントダブルスが実行されます。

自動キューを有効化

バーチャルデッキにトラックをロードする際、お使いのハードウェアの対応するチャンネルフェーダーキュー(プレフェーダーリスニング、PFL)が自動的に起動し、その時点で有効化されている他のキューがすべてオフとなります。

エフェクトの無効化

バーチャルデッキにトラックをロードする際、対応するFXバンクが無効化されます。

設定


オーディオ(USBバッファサイズ[レイテンシー])

Serato DJ Liteでは、オーディオデータは複数の小さなまとまりとして処理されます。使用されるまとまりが小さくなるほど、プлатターの動きがより頻繁にオーディオに変換され、システム全体のレイテンシーが低下します。しかし、これにはより多くの処理能力が必要となり、CPU負荷が高まるため、バッファサイズを小さく設定すると、中断のないオーディオ生成のためにはより高い性能のパソコンが必要となります。

レイテンシーの低下によりハードウェアとソフトウェア間の通信応答性が高まり、スクラッチなどのスピードを上げられます。しかし、それによりパソコンへの負荷が増加し、ロースペックのパソコンではオーディオのドロップアウトが発生することがあります。そこで、まずUSBのバッファサイズを5msに設定してから、好みに合わせて調整するよう推奨します。

ライブラリ+表示(ライブラリ)

iTunesライブラリを表示する

[Show iTunes Library (iTunesライブラリを表示する)] オプションを有効にすると、Serato DJ Liteライブラリ内に自分のiTunesライブラリとプレイリストが表示できます。 アイコンをクリックすると、iTunesライブラリを折り畳めます。

[Show iTunes Library] オプションを無効にすると、Serato DJライブラリ内にあるiTunesの曲とプレイリストが削除されます。

Serato DJライブラリに永久的にiTunesの音楽を追加するには、Serato DJ画面の左端にある[すべて]か、Serato DJの各クレートに、トラックをドラッグ&ドロップします。

[すべて]や既存または新規のクレートに移動したファイルは、これで[Show iTunes Library] オプションを無効にしてもSerato DJにそのまま残ります。Serato DJに永久的に追加されたファイルからは、iTunesのロゴが消えます。

Serato DJライブラリに音楽を追加したら、このチェックボックスの選択を解除するよう推奨します。

注:

- 多数のトラックが含まれているiTunesライブラリの場合、Serato DJで読み込むのに時間がかかる場合があります。
- Serato DJ内でiTunesライブラリにあるトラックのファイル情報を変更すると、その変更はiTunesでトラックを再生するまでiTunesには表示されません。
- Serato DJでは、以前Apple iTunes Music Storeで販売されていたものなど、デジタル著作権管理(DRM)システムで保護されていたファイルは再生できます。なお、iTunes PlusファイルにはDRM保護はありません。
- iTunesはMacとPCで利用できます。詳細はwww.apple.comをご覧ください。

ライブラリの文字サイズ

このスライダーを調整して、メインライブラリとクレートエリアのフォントサイズを変更できます。フォントサイズの変更にはキーボードショートカットの「+」と「-」も使用できます。

設定

ライブラリ+表示(表示)

高解像度画面ディスプレイ

この機能を有効化すると、RetinaやUHDをはじめとする高解像度ディスプレイ用にSerato DJ Liteでユーザーインターフェイスをスケーリングできるようになります。

注: [高解像度画面ディスプレイ] オプションは性能に影響する場合があります。また、有効化するにはSerato DJ Liteを再起動する必要があります。

Seratoへ匿名で使用データを送信

Serato DJ Liteについての情報やユーザーの使用状況を自動的に送信することは、当社の製品とサポートの向上につながります。データは完全に匿名であり、性能には影響しません。このチェックボックスの選択を解除すると、オプトアウトできます。

ライブラリ+表示(音楽ストリーミング)

ストリーミングサービスを表示

Serato DJはストリーミングライブラリを読み込むことができます。このオプションを選択してストリーミングサービスにログインすると、プレイリストを管理しストリーミングトラックでDJを行えます。

設定

ミキサー

Serato DJ対応ハードウェアの機種によっては、設定画面の[ミキサー]セクションの一部のオプションは調整できない場合があります。これは、代わりにSerato DJ対応ハードウェアで調整が行われるためです。

[詳細はハードウェアのクイックスタートのセクションをご覧ください。](#)

ミキサー(一般)

出力

オーディオ出力をモノまたはステレオに設定できます。

ミキサー(モニタリング)

キューミックスとマスターキュー

ヘッドフォンに出力されるキューとマスターをミックスします。この設定を無視して、キューを通してマスター出力のみを聞きたい場合は、[マスターキュー]ボタンをクリックします。

キュー音量

この設定は、Serato DJ対応ハードウェアの機種によっては使用できず、代わりにハードウェアで調整を行います。この機能のないハードウェアでは、ソフトウェアのキュー音量は既定値の10%に設定されます。このダイヤルで設定値を上げてヘッドフォンのゲインを最大12dBにすることができます。聴覚障害を避けるため、音量が高くなり過ぎないようにご注意ください。

注: キューの音量を上げると音質が低下するため、ヘッドフォンの音量に問題がある場合のみ使用してください。

キューのスプリット

[キューのスプリット]を有効化すると、キューバスとマスター/ミックスが合わせてモノに出力され、キュー出力全体に分割されるため、左耳でキューを、右耳でマスターを聞くことができます。なお、ハードウェアの機種によっては、使用できない場合があります。

設定

ミキサー(クロスフェーダー)

クロスフェーダーカーブを調整します。ダイヤルを左に回すと徐々にフェードし、右に回すと鋭いカットになります。この調整により **リニア** と **パワー** の両タイプのカーブが影響を受けます。

リニア: [リニア] を選択してクロスフェーダーカーブを低速に設定すると、クロスフェーダーを動かすのに伴い2つのトラックがスムーズにブレンドされます。クロスフェーダーが中央位置に来ると両方のトラックはそれぞれ半分の音量となり、個々のトラックでは音量が低下します。

クロスフェーダーカーブを高速に設定にすると、両方のチャンネルがクロスフェーダーのほぼ全レンジにわたってフル音量となり、両端に達すると急にカットされます。リニアカーブを高速に設定すると、スクラッチやターンテーブルリズムに非常に便利です。

パワー: [パワー] を選択してクロスフェーダーカーブを低速に設定すると、クロスフェーダーの中央位置では明らかな音量低下があり、既に再生中のトラックの音声がスムーズにフェードアウトしてから次のトラックがフェードインします。クロスフェーダーカーブを高速に設定にしても、クロスフェーダーをレンジ内で動かすのに伴い2つのトラックがスムーズにブレンドしますが、次のトラックが割り当てられているチャンネルの方へクロスフェーダーを動かしていくと、そのトラックがミックスのほぼ冒頭から聞こえだします。

リバース: クロスフェーダーのコントロール方向を反転します。左側に割り当てられているチャンネル群を「グループA」、右側に割り当てられているものを「グループB」とすると、クロスフェーダーを左から右に動かした際にグループBからグループAへとフェードします。

無効: クロスフェーダーを無効化します。これは、チャンネルアップフェーダーのみを使用しており、クロスフェーダーをナッジして間違得ないようにする場合に便利です。

注: Serato DJ対応ハードウェアは、機種によりフェーダーオプションを使用できないものもあります。

ミキサー(MIC/AUX)

ご使用のハードウェアでソフトウェアの音量が調整できる場合は、MIC/AUX入力の音量も調整できます。

トラブルシューティング

Serato DJ Liteで問題が発生した場合は、以下の解決方法をお試しください。

さらにサポートが必要な場合は、support.serato.comで記事やガイドをご覧になるか、www.serato.com/forumにアクセスしてDJコミュニティのサポートをお求めになれます。または、ヘルプパネルの[サポートを依頼]をクリックしてください。

警告ランプ

Serato DJ Liteのメイン画面右上には警告ランプが点灯し、問題発生の可能性が表示されることがあります。

オーディオドロップアウト警告

オーディオドロップアウトの可能性が高まると、小さなランプが点灯します。

オーディオドロップアウトの発生を防ぐには、以下をお試しください。

- USBのオーディオバッファサイズを大きくします(設定画面)
- Serato DJ Liteと同時に実行されている他のアプリケーションを終了します。
- バックグラウンドタスクをオフにします(ワイヤレスネットワークやBluetoothなど)
- support.serato.comにあるコンピュータの最適化に関するヒントを試してみます。

それでも問題が解決しない場合は、support.serato.comに技術サポートをご依頼ください。

オーディオのドロップアウトや歪み

Serato DJ Liteの性能が思わしくない場合は、以下をお試しください。

- 設定画面の更新確認ボタンをクリックするか、www.serato.comにアクセスしてソフトウェアの更新を確認します。
- ライブラリで検出された破損ファイルを削除します。
詳細は「破損ファイル」のセクションをご覧ください。
- 開いている他のすべてのプログラムを終了します。
- ワイヤレスネットワークデバイスを無効化します。
- Bluetoothデバイスを無効化します。
- ウィルス対策ソフトを無効化します。
- スクリーンセーバーを無効化します。
- スリープモードを無効化します。
- USBのバッファサイズを上げ、変更を適用します。
詳細は「USBバッファサイズ」のセクションをご覧ください。
- Serato DJ対応ハードウェアを、USBハブを使わず直接コンピュータのUSBポートに接続します。
- すべてのUSBポートでの接続を試してみます。
- 他のUSBデバイスを取り外します。
- ノートパソコンを電源に接続して使用します。

トラブルシューティング

ファイルが情報を保存しない問題

- そのファイルに対する読み取り・書き込み権限があるか確認します。
- そのファイルを含むフォルダに対する読み取り・書き込み権限があるか確認します。
- ファイルが外付けドライブに保存されている場合は、そのドライブが読み取り・書き込み用に正しくフォーマットされている(Mac用はMac OS拡張(ジャーナリング)、Windows用はNTFS、MacおよびWindowsの双方にはFAT32)か確認します。
- ファイルを再エンコードするか、iTunesなどの変換ツールを利用してファイルを別の形式に変換してみます。
- 管理者としてログインしているか、および/またはご使用のコンピュータでファイルへの読み書きが可能か確認します。

ハードウェアの切断

- ハードウェア製造元のウェブサイトかインストールCDから、ハードウェアドライバーをインストール済みか確認します。
- Serato DJ対応ハードウェアを、USBハブを使わず直接コンピュータのUSBポートに接続します。
- すべてのUSBポートでの接続を試してみます。
- 他のUSBデバイスを取り外します。

破損ファイル診断

破損ファイルアイコンが表示されているファイルがある場合は、そのアイコンにカーソルを合わせると、検出された破損の種類が表示されます。この情報はライブラリの一番下にあるステータスバーに表示されます。

破損したファイル:このMP3には無効なフレームが含まれています。

このMP3には、正式なMP3仕様に厳密に準拠していないフレームが含まれています。Serato DJ Liteでは、このファイルを100パーセント正確に再生できない場合があります。

破損したファイル:このファイルには、可聴グリッチを生じる可能性のある破損フレームが含まれています。

このファイルには2つ以上の連続した破損フレームが含まれています。破損フレームは無音で置き換えられるため、オーディオグリッチのように聞こえる場合があります。

トラブルシューティング

破損ファイル診断

破損したファイル:このファイルは分割されています。開始部分にオーディオグリッチがないか確認してください。

このファイルの最初のMPEGオーディオフレームは、前にあるべきオーディオを参照しています。これは通常、不正なMP3編集の結果生じます。破損フレームは無音で置き換えられますが、多くの曲が無音で始まるため、破損の結果生じる無音には気付かない場合があります。いずれにせよ、曲の先頭を聞いて確認する必要があります。

破損したファイル:このMP3には破損したデータのあるフレームが含まれています。

MPEGオーディオフレームの復号化に失敗しました。これは、フレームに無効なデータが含まれていることを意味します。破損したフレーム同様、このフレームも無音として再生されます。

破損したファイル:このMP3ではフレームインデックスとフレーム間の同期が失われています。

Serato DJ Liteは、サードパーティーの編集プログラムで編集されたMP3の古い概要を読み込んでいます。このエラーは通常、問題のあるファイルの概要を再構築すると修正されます。

破損したファイル:このMP3は完全に無効で、再生が不可能です

メッセージの通りです。考えられる原因には、ディスク不良セクター、ファイルシステムの破損、不正なファイル形式、不正なファイル拡張子などがあります。

破損したファイル:このファイルには無効なオーディオデータが含まれています。

Serato DJ Liteは、このファイルのオーディオを検出中に無効なデータを検出しました。このメッセージは、再生しようとしているファイルに破損データが含まれている、という警告です。これは、再生に影響する場合としない場合があります。

破損したファイル:このMP3には有効なフレームがありません。

このファイルではオーディオを検出できませんでした。つまり、Serato DJ Liteでは全く再生できません。このファイルが本当にオーディオファイルなのか確認してください。

サポートされていないファイル:このMP3には複数のレイヤーが含まれています。

Serato DJ Liteは、このファイルのスキャン中に複数のMPEGレイヤーに属するフレームを検出しました。Serato DJ Liteでは、複数のレイヤーからのフレームを含むMP3をサポートしていません。一部のフレームは無音として出力される場合があります。